

消費者情報ガイド

JEEP[®] COMMANDER

目次

1	はじめに.....	2
2	車両の概要.....	3
3	インストルメント・パネルについて.....	5
4	安全について.....	8
5	整備およびお手入れ.....	31
6	さく引.....	36

はじめに

この消費者情報ガイドは、お車に関する重要な情報をご理解いただくために作成されました。

このガイドでは、このお車に標準装備またはオプション装備されている機能や装備の操作方法についても図解して説明しています。また、このガイドには、この車両に設定されなくなった、または設定されなかった機能や装備についての記述が含まれている場合があります。このガイドに記載されている機能や装備のうち、この車両に装備されていないものは無視してください。FCA International Operations LLC (FCAIO) は、以前に生産された車について何ら義務を負うことなく、設計および仕様を変更し、製品への追加・改良を行う権利を有するものとします。情報の完全なリストについては、オンラインで完全な取扱説明書を参照してください。常に安全に運転し、道路の状況に注意を払ってください。

ステアリング・ホイールは両手で操作し、常に安全運転を心がけてください。この車の Uconnect の機能およびアプリケーションの使用に関する責任およびリスクはすべてお客様が負うものとします。この機能と用途は、安全に使用できる場合にのみ使用してください。注意をそらすと、重傷または死亡を伴う事故が起こるおそれがあります。

記号説明

警告!	この記載は、衝突事故やけが、死亡につながる恐れのある運転操作などに適用されます。
注意!	この記載は、車に損傷を与える恐れのある操作などに適用されます。
メモ:	取り付け、操作、信頼性を改善するための提案です。これに従わないと、損傷が発生することがあります。
ヒント:	製品や機能をより使いやすくするための一般的なアイデア／解決策／提案です。
ページ参照矢印  page	これを参照すると、特別な機能についての詳細な情報が得られます。

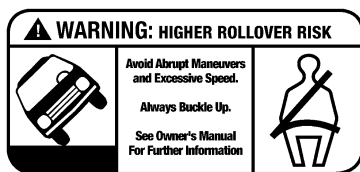
	脚注	その項目に付随する補足／該当情報です。
---	-----------	---------------------

重要な情報を見逃すことのないよう、本書をよくお読みください。注意および警告には必ず従ってください。

横転に関する警告

多目的車は、他の車種より横転する確率が非常に高くなります。この車両は、他の多くの乗用車に比べて車高と重心位置が高くなっています。これにより、各種オフ・ロード用途で高い性能を発揮します。しかし、どのような車であっても、安全性を無視した運転をすれば制御不能に陥る恐れがあります。特にこの車は重心位置が高いため、制御不能になると他の車が横転しないケースでも、横転する恐れがあります。

急にカーブを曲がったり、意図しない操縦を試みたりといった無謀な運転は、車が制御不能になる恐れがありますのでおやめください。安全運転を怠ると、衝突事故、車の横転、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。慎重な運転を心がけてください。



80bfe0f0

横転警告ラベル

シートベルトを着用していないと、重傷または死亡につながる恐れがあります。横転事故において、シートベルトを着用していない場合は、着用している場合と比べ、死亡率が非常に高くなります。必ずバックルを締めてください。

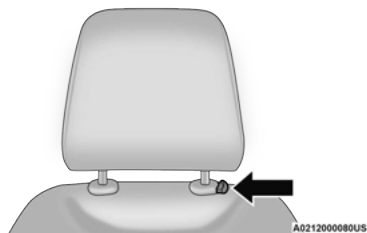
車両の概要

シート

シートは車両の乗員保護拘束装置の一部です。

警告!

- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。



ヘッド・レスト調節ボタン

警告!

- 運転者を含むすべての乗員は、衝突時に首を損傷する危険性を最小限に抑えるために、ヘッド・レストを正しい位置に調節してから、車両を運転したり着座したりしてください。
- 車が動いているときには、ヘッド・レストを調整しないでください。ヘッド・レストの調整が不適切な状態で運転したり、取り外した状態で運転したりすると、衝突時に傷害や死亡事故につながる恐れがあります。

ヘッド・レスト

ヘッド・レストは、後方から追突されたときに頭部の動きを制限して負傷の危険性を低減します。ヘッド・レストは、ヘッド・レストの上端が耳の上端より上になるように調整してください。

警告!

- 運転者を含むすべての乗員は、衝突時に首を損傷する危険性を最小限に抑えるために、ヘッド・レストを正しい位置に調節してから、車両を運転したり着座したりしてください。
- 車が動いているときには、ヘッド・レストを調整しないでください。ヘッド・レストの調整が不適切な状態で運転したり、取り外した状態で運転したりすると、衝突時に傷害や死亡事故につながる恐れがあります。

メモ:

ヘッド・レストの取り外しは、資格を持った整備士が整備目的でのみ行います。いずれかのヘッド・レストを取り外す必要がある場合は、ジープ正規ディーラーにお問い合わせください。

2 列目シート・ヘッド・レスト

2 列目シート・ヘッド・レストには、上と下の 2 つの位置があります。センタ・シートに乗員が座っているときは、ヘッド・レストを上げた位置にする必要があります。センタ・シートに乗員が座っていないときは、ヘッド・レストを下げて運転者の視界をよくすることができます。

メモ:

頭部後方の空間を広げるために、ヘッド・レストの向きを前後逆にする(ヘッド・レストの後面を前方に向ける)ことはおやめください。

フロント・ヘッド・レストの調節

この車両には、運転席と助手席にフロント 2 ウェイ・ヘッド・レストが装備されています。

ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上に引き上げます。ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してからヘッド・レストを下に押し下げます。

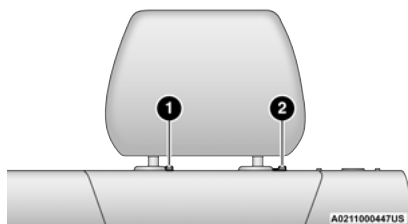


センタ乗員ヘッド・レスト警告ラベル

ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上に引き上げます。ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してからヘッド・レストを下に押し下げます。

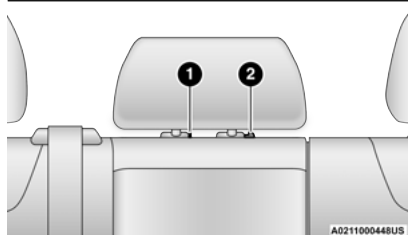
メモ:

- リヤ・ヘッド・レストを取り外すには、ヘッド・レストを上限まで引き上げます。そのまま上に引きながら、各ロッドのベース部にあるリリース・ボタンと調整ボタンを押します。ヘッド・レストを元のとおりに取り付けるには、ヘッド・レストのロッドを穴に差し込み、ヘッド・レストを下向きに押し込みます。次に、ヘッド・レストを適切な高さに調整します。
- ドア側ヘッド・レストを完全に取り外すには、シート・バックをリクライニングさせる必要がある場合があります。



2 列目シート・ドア側ヘッド・レスト

- 1 - リリース・ボタン
- 2 - 調整ボタン



2 列目シート・センタ・ヘッド・レスト

- 1 - リリース・ボタン
- 2 - 調整ボタン

警告!

取り外したヘッド・レストは、乗員保護のため、すべてを必ず元のとおりに車両に取り付ける必要があります。

3 列目シート・ヘッド・レスト

3 列目シート・ヘッド・レストには、上と下の 2 つの位置があります。

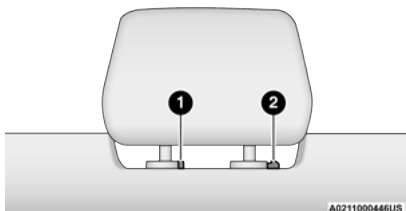
ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上引きします。ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してからヘッド・レストを下に押しします。

メモ:

- ヘッド・レストを取り外すには、ヘッド・レストを上限まで引き上げます。そのまま上に引きながら、

各ロッドのベース部にあるリリース・ボタンと調整ボタンを押します。ヘッド・レストを元のとおりに取り付けるには、ヘッド・レストのロッドを穴に差し込み、ヘッド・レストを下向きに押し込みます。次に、ヘッド・レストを適切な高さに調整します。

- ドア側ヘッド・レストを完全に取り外すには、シート・バックをリクライニングさせる必要がある場合があります。



3 列目シート・ヘッド・レスト

- 1 - リリース・ボタン
- 2 - 調整ボタン

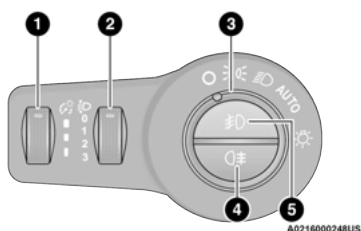
警告!

取り外したヘッド・レストは、乗員保護のため、すべてを必ず元のとおりに車両に取り付ける必要があります。

車外灯

ヘッドライト・スイッチ

ヘッドライト・スイッチは、インストルメント・パネルの右側にあります。このスイッチは、ヘッドライト、デイトタイム・ランニング・ライト、駐車灯、ロー・ビーム・ライト、オート・ヘッドライト、フロントおよびリヤ・フォグ・ライト(タイプ別装備)、ヘッドライトレベリング、およびインストルメント・パネルのイルミネーション操作を制御します。



ヘッドライト・スイッチ

- 1 - インストルメント・パネルのイルミネーション・コントロール
- 2 - ヘッドライト・レベリング・コントロール
- 3 - 回転式ヘッドライト・コントロール
- 4 - リヤ・フォグ・ライト・スイッチ
- 5 - フロント・フォグ・ライト・スイッチ

駐車灯やインストルメント・パネルの照明を点灯するには、ヘッドライト・スイッチを「O」(OFF)位置から最初のディテントまで時計回りに回します。ヘッドライト、駐車灯、インストルメント・パネルの照明を操作するには、ヘッドライト・スイッチを2番目のディテントまで回します。

ヘッドライトを点灯するとインストルメント・パネルと、インストルメント・パネルにあるコントロールの照明が点灯します。

ハイ・ビーム／ロー・ビーム・スイッチ

ハイ・ビーム・ヘッドライトを作動させるには、マルチファンクション・レバーを前方(車両前方側)に押し、インストルメント・パネル・ディスプレイに表示灯が点灯します。ハイ・ビーム・ヘッドライトの作動を解除するには、マルチファンクション・レバーを後方(車両後方側)に引きます。

メモ:

ハイ・ビームを作動させるには、ヘッドライト・スイッチをロー・ビーム位置にする必要があります。

自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御 - タイプ別装備

自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御システムは、フロントガラスに搭載されているデジタル・カメラによってハイ・ビームの切り替えを自動的に制御し、夜間の優れた前方照射性を実現します。このカメラは、車両特有の光を検知し、接近している車両が視界から消えるまでハイ・ビームをロー・ビームに自動的に切り替えます。

インストルメント・パネルについて

警告灯およびメッセージ

インストルメント・パネルの警告灯／表示灯が点灯すると、それに関連する専用のメッセージや警告音が同時に発せられます。メッセージや警告音は注意を喚起する予備的なものですので、それだけに頼ったり、取扱説明書に記載されている情報に代わるものと考えたりはしないでください。また、いかなる場合でも取扱説明書の説明を十分に読み取ってください。故障の兆候が見受けられる場合は、必ずこの章の説明を参照してください。まず、問題に該当する表示灯がすべて表示されます。装備オプションやその時点の車両の状態によっては、システム点検メニューの表示が異なることがあります。一部の表示灯はオプションであり、表示されないことがあります。

赤色警告灯

エアバッグ警告灯



この警告灯は、エアバッグの故障を示し、イグニッションを「ON/RUN(オン/走行)」位置にすると、電球点検として4～8秒間点灯します。この警告灯は、エアバッグの故障が検出された場合にチャ임1回と

メモ:

- 自動ハイ・ビームを作動させるには、マルチファンクション・レバーをハイ・ビーム位置にする必要があります。自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御のオン/オフは、Uconnect 設定で行えます。
- 視界にある他の車両のヘッドライトやテールライトが破損していたり、汚れていたり、異物が覆われていると、切り替わるタイミングが遅くなる場合があります(切り替わる際の車間距離が短くなります)。また、フロントウィンドウやカメラのレンズが汚れていたり、膜が付いていたり、その他の異物があると、システムが正しく機能しません。

オート・ヘッドライト - タイプ別装備

このシステムは、車外の明るさに応じてヘッドライトを自動的に点灯／消灯します。システムをONにするには、ヘッドライト・スイッチをオート・ヘッドライトが作動する最後の停止位置まで時計回りに回します。オート・ヘッドライト・システムをONにすると、ヘッドライトの消灯遅延機能もONになります。つまり、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にしてから、最大90秒間ヘッドライトが点灯したままになります。オート・ヘッドライト・システムをOFFにするには、ヘッドライト・スイッチを「AUTO」位置から他の位置へ回します。

メモ:

オート・モードでヘッドライトが点灯するには、エンジンが作動している必要があります。

ともに点灯し、故障が解消されるまで点灯したままになります。エンジン始動時にこの警告灯が点灯しなかったり、点灯したままの状態になったり、または運転中に点灯した場合は、直ちにジープ正規ディーラーで点検を受けてください。

ブレーキ警告灯



この警告灯は、ブレーキ・フルード量やパーキング・ブレーキなどの様々なブレーキ機能をモニタします。ブレーキ警告灯が点灯している場合は、パーキング・ブレーキがかかっているか、ブレーキ・フルード量が低下しているか、またはアンチロック・ブレーキ・システムに不具合があることを示しています。

パーキング・ブレーキがかかっていることやマスタ・シリンダ・リザーバのフルード量が規定値にあるときに、ブレーキ警告灯が点灯したままの場合は、ブレーキ油圧システムに故障があるか、またはブレーキ・ブースタでの問題がアンチロック・ブレーキ・システム(ABS)／エレクトロニク・スタビリティ・コントロール(ESC)システムで検出されたことを示しています。この場合、不具合が修理されるまで警告灯は点灯し続けます。問題がブレーキ・ブースタに関係し

ている場合、ブレーキをかけているときに ABS ポンプが作動し、停車しようとするたびにブレーキ・ペダルの脈動が感じられる場合があります。

このデュアル・ブレーキ・システムは、油圧システムが一部効かなくなった場合に予備のブレーキ能力を発揮します。デュアル・ブレーキ・システムのいずれかで漏れが発生すると、ブレーキ警告灯が点灯します。これは、マスタ・シリンダのブレーキ・フルード量が規定値より低下した時に点灯します。

警告灯は、不具合が修理されるまで点灯し続けます。

メモ:

この警告灯は、急なカーブを曲がるときなどにフルード量の状態が変化することにより点滅する場合があります。車両を整備に出し、ブレーキ・フルード量の点検を受けてください。

ブレーキの故障がある場合は、直ちに修理が必要です。

警告!

赤いブレーキ警告灯が点灯したままの状態で行くことは危険です。ブレーキ・システムの一部に故障が起きている可能性があります。この場合、車両の制動距離が長くなります。衝突事故につながります。直ちに点検を受けてください。

アンチロック・ブレーキ・システム (ABS) 装備車には、電子ブレーキ・フォース・ディストリビューション (EBD) 機能も搭載されています。EBD が故障した場合、ブレーキ警告灯が ABS 警告灯とともに点灯します。早急に ABS システムを修理する必要があります。

ブレーキ警告灯の動作は、イグニッション・スイッチを「OFF」位置から「ON/RUN」位置に回すことによって確認できます。警告灯が約 4 秒間点灯します。その後、パーキング・ブレーキを効かせるか、またはブレーキの不具合が検知されない限り、警告灯は消灯します。警告灯が点灯しない場合、ジープ正規ディーラーで点検を受けてください。

また、イグニッション・スイッチが「ON/RUN」位置でパーキング・ブレーキを効かせるとこの警告灯が点灯します。

メモ:

この場合は、単にパーキング・ブレーキがかかっていることを示します。ブレーキの作動具合を示すものではありません。

シートベルト警告灯



この警告灯は、運転席または助手席のシートベルトが締められていないことを示します。イグニッションを最初に「ON/RUN (オン/走行)」または

「ACC/ON/RUN (ACC/オン/走行)」位置にしたときに、運転席のシートベルトが外れている場合は、チャイムが鳴り警告灯が点灯します。運転中に助手席のシートベルトが外れたままの場合は、シートベルト警告灯が点滅または点灯し続け、チャイムが鳴ります。

黄色警告灯

タイヤ空気圧モニタ・システム (TPMS) 警告灯 — タイプ別装備



警告灯が点灯し、タイヤ空気圧が推奨値よりも低下していることや、ゆっくりと圧力が喪失していることを伝えるメッセージが表示されます。このような場合、最適なタイヤの寿命や燃費が確保されないことがあります。

1 本以上のタイヤが前述の状態になった場合、該当するタイヤが表示されます。

注意!

1 本以上のタイヤがパンクした状態で走行を続けてください。操作性が失われるおそれがあります。急ブレーキや急ハンドルを避け、車を止めてください。タイヤがパンクした場合は、専用のタイヤ修理キットを使用して速やかに修理を行い、できるだけ早くジープ正規ディーラーにお問い合わせください。

冷間時に、スペア・タイヤ (ある場合) も含め各タイヤを毎月チェックし、車両ブラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されているメーカー推奨空気圧までタイヤの空気を入れてください。車両ブラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されているサイズとは異なるサイズのタイヤが車に取り付けられている場合、適切なタイヤ空気圧を判断する必要があります。

追加の安全機能として、車両には TPMS が装備されており、1 つ以上のタイヤの空気圧が大幅に低下したときに低タイヤ空気圧警告灯が点灯します。低タイヤ空気圧警告灯が点灯したら、直ちに車を止め、タイヤをチェックした後、適切な空気圧までタイヤに空気を入れてください。タイヤ空気圧が著しく低下している状態で走行すると、タイヤが過熱し、タイヤの不具合につながるおそれがあります。タイヤ空気圧が低いと燃費も低下し、タイヤ・トレッドの寿命も短くなります。さらに、車の操作や制動能力にも影響が出る可能性があります。

TPMS は通常のタイヤのメンテナンスに代わるものではないことに注意してください。空気圧の低下が TPMS の低タイヤ空気圧警告灯が点灯するレベルに達していない場合でも、タイヤの空気圧を正しく保つのは運転者の責任です。

また、この車には、システムの動作が適切でない場合に点灯する TPMS 警告灯が装備されています。TPMS 警告灯は低タイヤ空気圧警告灯と組み合わせて使用されます。システムによって不具合が検出されると、警告灯が約 1 分間点滅し、その後は点灯し続けます。不具合が発生しているかぎり、この動作はその後の車の始動時にも継続します。警告灯が点灯していると、システムによって低タイヤ空気圧が正しく検出および警告できない場合があります。TPMS の不具合は、交換タイヤまたは代替タイヤまたはホイールを車に取り付けた場合など、TPMS の適切な動作を妨げるさまざまな原因によって発生します。タイヤやホイールを 1 つでも交換し

た場合は、TPMS 警告灯を必ず確認し、交換用または代替のタイヤやホイールでも TPMS が引き続き正常に動作することを確認してください。

注意!
TPMS は、純正タイヤとホイール用に最適化されています。TPMS の空気圧と警告は、車両に取り付けられたタイヤ・サイズに対して設定されています。サイズ、タイプ、またはスタイル(あるいはそのすべて)が同じでない交換タイヤを使用すると、好ましくないシステム操作が発生したり、センサが損傷したりする場合があります。アクセサリ部品のホイールを使用すると、センサが損傷する可能性があります。市販のタイヤ・シーラントを使用すると、タイヤ空気圧モニターシステム (TPMS) のセンサが作動しなくなる場合があります。市販のタイヤ・シーラントの使用後は、お近くのジープ正規ディーラーに車両をお持ちいただき、センサ機能の点検を受けることをお勧めします。

オンボード故障診断システム — OBD II

この車両には、OBD II と呼ばれる高性能のオンボード故障診断システムが装備されています。このシステムは、排気、エンジン、およびトランスミッションの各コントロール・システムの性能を監視するものです。これらのシステムが適切に作動していると、車両は最高の性能を発揮するほか、燃費も向上し、排ガスのレベルも基準値を大幅に下回ります。

これらのシステムで点検が必要になると、OBD II システムはエンジン警告灯 (MIL) を点灯します。また、故障診断コードや他の情報も記録するので、修理時の補助となります。この警告灯が点灯した場合でも、通常車両は走行可能で、けん引の必要はありませんが、できるだけ早くジープ正規ディーラーで整備を受けてください。

注意!
● MIL が点灯したまま長時間運転すると、排出物コントロール・システムへさらなる損傷を与える恐れがあります。また、燃費と操縦性にも影響を与えることがあります。排ガス点検を行う前に、必ず車両を整備してください。 ● 車両の走行中に MIL が点滅すると、重大な触媒コンバータの損傷と出力低下がすぐに発生します。直ちに整備を受けてください。

オンボード故障診断システム (OBD II) サイバーセキュリティ

エミッション・コントロール性能に関連する情報にアクセスするには、OBD II と接続ポートを装備する必要があります。認定を受けた整備士が車両およびエミッション・システムの診断および整備を実施する際に、この情報にアクセスすることが必要になる場合があります。

警告!
● VIN の読み取り、車両の診断、または整備を行うため、OBD II 接続ポートに機器を接続できるのは認定整備技術者に限られます。 ● OBD II 接続ポートに、運転者動作追跡機器などの不正な機器が接続された場合、以下が生じる恐れがあります。 ○ 安全関連システムを含む車両システムに障害が発生したり、車の制御が失われ、重傷または死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。 ○ 車両システムに保存された情報 (個人情報を含む) へのアクセス、またはそれらの情報への他者のアクセスが許可されます。

安全について

ドライビング・アシスト・システム

Tire Pressure Monitoring System (タイヤ空気圧モニタ・システム) (TPMS)

タイヤ空気圧モニタ・システム (TPMS) は、プラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧に基づいて、運転者にタイヤの空気圧が低くなっていることを警告します。

タイヤ空気圧は、外気温が 6.5°C (12°F) 変わるとに約 7kPa (1psi) 変動します。つまり、外気温が下がると、タイヤ空気圧は低下します。タイヤ空気圧は、必ず冷間時のタイヤ空気圧に基づいて設定してください。冷間時のタイヤ空気圧とは、車両が 3 時間以上停車している状態のタイヤ空気圧、または 3 時間が経過した後で走行した距離が 1.6km (1 マイル) 未満の空気圧を意味します。冷間時のタイヤ空気圧は、タイヤの側面に記載された最大空気圧を超えないようにしてください。また、タイヤ空気圧は車両走行中に上昇します。これは正常なので、上昇した空気圧を調整しないでください。

車のタイヤに適切に空気を入れる方法については、「タイヤ」を参照ください。

TPMS は、低温の影響や自然なタイヤ空気圧の損失など、何らかの理由でタイヤ空気圧が低タイヤ空気圧警告灯を下回る場合に、運転者にタイヤ空気圧が低くなっていることを警告します。そのような状況である限り、TPMS は運転者にタイヤ空気圧が低いことを警告し続けます。タイヤ空気圧がプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧以上になると、警告は OFF になります。

メモ:

低タイヤ空気圧警告 (TPMS 警告灯) が点灯したら、この TPMS 警告灯を消灯するためには、タイヤ空気圧をプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧まで上げる必要があります。

メモ:

暖まっているタイヤに空気を入れる場合、TPMS 警告灯を消灯するために、タイヤ空気圧をプラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧よりさらに最大 28kPa (4psi) 上昇させる必要があります。

システムが自動的に更新され、更新されたタイヤ空気圧をシステムが受信すると、TPMS 警告灯が消灯します。TPMS がこの情報を受信するには、車両を約 24km/h (15mph) を超える速度で最長 10 分間走行させてください。

たとえば、車両のプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧 (3 時間以上停車) が 227kPa (33psi) であるとして、周囲温度が 20°C (68°F) で測定タイヤ空気圧が 193kPa (28psi) のとき、気温が 7°C (20°F) に下がると、タイヤ空気圧は約 165kPa (24psi) に低下します。このタイヤ空気圧は、TPMS 警告灯が点灯するのに十分低いです。車両を走行させると、タ

イヤ空気圧が約 193kPa (28psi) に上昇する場合がありますが、TPMS 警告灯はまだ点灯したままです。この状況で、TPMS 警告灯を消灯するには、車両のプラカードに記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧の値までタイヤに空気を入れるしかありません。

注意!

- TPMS は、純正タイヤとホイール用に最適化されています。TPMS の空気圧と警告は、車両に取り付けられたタイヤ・サイズに対して設定されています。サイズ、タイプ、またはスタイル (あるいはそのすべて) が同じでない交換タイヤを使用すると、好ましくないシステム操作が発生したり、センサが損傷したりする場合があります。TPMS センサは、市販のホイールを使用するように設計されておらず、そうすることでシステム性能が全般に低下したり、センサが損傷する可能性があります。お客様は TPMS 機能が適切に作動するように必ず純正装着 (OEM) を使用するようしてください。
- 市販のタイヤ・シーラントを使用すると、タイヤ空気圧モニタ・システム (TPMS) のセンサが作動しなくなる場合があります。市販のタイヤ・シーラントの使用後は、お近くのジープ正規ディーラーに車両をお持ちいただき、センサ機能の点検を受けることをお勧めします。
- タイヤ空気圧を点検して調節したら、必ずバルブ・ステム・キャップを取り付けてください。このキャップは、水分や汚れのバルブ・ステムへの混入を防ぎます。水分や汚れが入ると、TPMS センサが損傷することがあります。

メモ:

- TPMS は、タイヤの通常のお手入れおよびメンテナンスに代わるものではなく、タイヤの破損または状態を警告するためのものです。
- タイヤ空気圧の調節時に、TPMS をタイヤ空気圧ゲージとして使用しないでください。
- タイヤ空気圧が著しく低下している状態で走行すると、タイヤが過熱し、タイヤの不具合につながるおそれがあります。タイヤ空気圧が低いと燃費も低下し、タイヤ・トレッドの寿命も短くなります。さらに、車の操作や制動能力にも影響が出る可能性があります。
- TPMS は通常のタイヤのメンテナンスに代わるものではないことに注意してください。空気圧の低下が TPMS 警告灯が点灯するレベルに達していない場合でも、正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ空気圧を正しく保つのは運転者の責任です。
- 季節的な温度変化はタイヤ空気圧に影響を与えます。TPMS は実際のタイヤ空気圧を監視します。

プレミアム・システム

タイヤ空気圧モニタ・システム (TPMS) は、無線技術を使用して、ホイール・リムに装着された電子センサでタイヤ空気圧レベルを監視しています。バルブ・システムの一部として各ホイールに取り付けられたセンサによって、タイヤ空気圧の値がレシーバ・モジュールに送信されます。

メモ:

月 1 回車両のすべてのタイヤの空気圧を確認して適正な空気圧に保つことは、特に重要です。

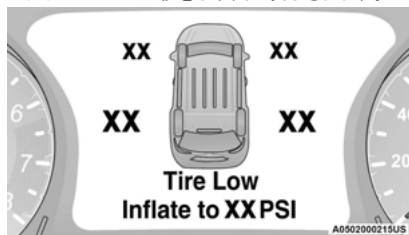
TPMS は、下記の部品で構成されます。

- レシーバ・モジュール
- 4 つのタイヤ空気圧モニタ・システム・センサ
- インストルメント・パネル・ディスプレイに表示される各種タイヤ空気圧モニタ・システムのメッセージ
- タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯

タイヤ空気圧モニタ・システム低圧警告



使用中のロード・タイヤ 4 本のうち 1 本以上のタイヤ空気圧が低下した場合に、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯がインストルメント・パネルで点灯し、チャイムが鳴ります。また、インストルメント・パネルに「Tire Low (タイヤ空気圧が低い)」メッセージと、低タイヤ圧の値が反転表示または異なる色になったタイヤごとの圧力値を示す図が表示されます。



タイヤ空気圧モニタ・システム低圧警告

この警告が発生した場合、できるだけ早く停止し、圧力が低いタイヤ (インストルメント・パネル・ディスプレイの図に反転表示または異なる色で示されているタイヤ) に、プラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧まで空気を入れます。更新したタイヤ空気圧が受信されると、システムが自動的に更新されます。インストルメント・パネルのグラフィック表示にある圧力値は反転表示でなくなるか元の色に戻り、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯は消灯します。

メモ:

暖まっているタイヤに空気を入れる場合、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯を消灯するために、タイヤ空気圧をプラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧よりさらに最大 28kPa (4psi) 上昇させる必要があります。

TPMS がこの情報を受信するには、車両を約 24km/h (15mph) を超える速度で最長 10 分間走行させてください。

TPMS 整備警告

システム故障が検知されると、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が 75 秒間点滅し、その後点灯した状態になります。また、チャイムも鳴ります。さらに、インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM (TPM システムの整備が必要です)」というメッセージが 5 秒間以上表示され、空気圧値の代わりにダッシュ (- -) が表示され、どのセンサが受信していないかを示します。

イグニッション・キーを回してこれが繰り返される場合、システム故障がまだ解消されていません。システム故障が解消されると、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が点滅しなくなり、「SERVICE TPM SYSTEM (TPM システムの整備が必要です)」メッセージが表示されなくなり、ダッシュの代わりに圧力値が表示されます。システムの故障は、以下のいずれかの場合に発生する可能性があります。

- 電子装置による妨害電波または TPMS センサと同じ周波数の電波を発生する施設付近を走行した場合
- 電波に影響を与えるアクセサリ部品のカー・フィルムを何らかの形で設置した場合。
- ホイールやホイール・ハウス周りに大量の雪や氷が付いた場合。
- タイヤ・チェーンを装着した場合。
- TPMS センサが装備されていないホイールまたはタイヤを使用している場合

コンパクト・スペア・タイヤまたは不適合フル・サイズ・スペア・タイヤを装着している車両

1. コンパクト・スペア・タイヤまたは不適合フル・サイズ・スペア・タイヤには、タイヤ空気圧モニタ・システム・センサはありません。そのため、TPMS では、コンパクト・スペア・タイヤまたは不適合フル・サイズ・スペア・タイヤの空気圧はモニタされません。
2. ロード・タイヤの代わりに、空気圧が低圧警告灯を下回るコンパクト・スペア・タイヤまたは不適合フル・サイズ・スペア・タイヤを装着している場合、次回イグニッション・キーを回したときにタイヤ空気圧モニタ・システム警告灯は点灯したままになり、チャイムが鳴ります。また、インストルメント・パネルの図には、圧力値が異なる色または反転表示で表示されます。
3. 24km/h (15mph) を超える速度で最長 10 分間車両を走行させると、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が 75 秒間点滅した後、点灯したままの状態になります。さらに、インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM (TPM システムの整備が必要です)」というメッセージが 5 秒間表示され、空気圧値の代わりにダッシュ (- -) が表示されます。
4. その後、イグニッション・キーを回すたびにチャイムが鳴り、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が 75 秒間点滅した後に点灯したままになります。さらに、インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM (TPM システムの整備が必要です)」というメッセージが 5 秒間表示さ

れ、圧力値の代わりにダッシュ(-)が表示されます。

5. 元のロード・タイヤを修理または交換し、コンパクト・スベア・タイヤの代わりに再度取り付けると、TPMS が自動的に更新されます。また、使用中のロード・タイヤ 4 本のいずれも低圧警告灯を下回っていないければ、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が消灯し、インストルメント・パネルの図にダッシュ(-)の代わりに新しい圧力値が表示されます。TPMS がこの情報を受信するには、車両を約 24km/h (15mph) を超える速度で最長 10 分間走行させてください。

TPMS 作動解除 — タイプ別装備

冬用ホイールとタイヤ・アセンブリを車両に取り付けた場合など、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ(ロード・タイヤ)を TPMS センサを装備していないホイールとアセンブリに交換すると、TPMS を作動解除できます。

TPMS を作動解除するには、まず、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ(ロード・タイヤ)をタイヤ空気圧モニタ・システム (TPMS) センサを装備していないタイヤに交換します。次に、車両を 24km/h (15mph) を超える速度で 10 分間走行させます。TPMS のチャイムが鳴り、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が 75 秒間点滅した後、点灯したままの状態になります。インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM (TPM システムの整備が必要です)」というメッセージが表示され、空気圧値の代わりにダッシュ(-)が表示されます。

次回イグニッション・キーを回したとき、TPMS はチャイムを鳴らしたり、インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM (TPM システムの整備が必要です)」というメッセージを表示したりすることはありませんが、空気圧値の代わりにダッシュ(-)が表示されたままになります。

TPMS を再作動させるには、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ(ロード・タイヤ)を TPMS センサを装備しているタイヤに交換します。次に、車両を 24km/h (15mph) を超える速度で最長 10 分間走行させます。TPMS のチャイムが鳴り、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が 75 秒間点滅した後、消灯します。インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM (TPM システムの整備が必要です)」というメッセージが表示され、ダッシュの代わりに空気圧値が表示されます。次にイグニッション・スイッチを回したときに、システム故障は存在しないため「SERVICE TPM SYSTEM (TPM システムの整備が必要です)」というメッセージは表示されません。

乗員保護拘束装置

最も重要な安全装置の 1 つに乗員を拘束するシートベルトとエアバッグがあります。

乗員保護拘束装置の機能

- シートベルト・システム
- 補助拘束装置 (SRS) エアバッグ
- チャイルド・シート

このセクションで説明されている一部の安全機能は、一部のモデルでは標準装備されていますが、オプション装備のモデルもあります。標準装備されているか不確かな場合は、ジープ正規ディーラーでご確認ください。

安全に関する重要な注意事項

このセクションの説明は特に注意してお読みください。運転者と乗員の安全を守るためのシートベルト／エアバッグ・システムの正しい使用方法を説明しています。

次の要領で、エアバッグの作動により生じる危険を最小限にとどめてください。

1. 12 歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。



助手席サンバイザに貼付されている警告ラベル

2. 車両のシートベルトを適切に着用できるほど大きくないお子さまは、適切なチャイルド・シート、またはリヤ・シート位置のブースタ・シートを使用する必要があります ➡ ページ 25。
3. やむをえず 2～12 歳のお子さまを (後ろ向きチャイルド・シートを使用せずに) 助手席に座らせる場合には、シートをできるだけ後ろに移動させ、フロント・シートでの使用に適したチャイルド・シートを使用してください ➡ ページ 25。
4. 肩部分のベルトをお子さまの背後や腕の下に絶対に通さないでください。
5. チャイルド・シートやジュニア・シートを適切に使用するため、添付されている製造メーカーの説明書をお読みください。
6. 乗員は、必ず全員 3 点式シートベルトを正しく着用してください。
7. 運転席および助手席は、フロント・エアバッグが膨張するスペースを確保するために、運転に差し支えない程度に、できるだけ後方に移動させてください。

8. ドアまたはウインドウに寄りかからないでください。サイド・エアバッグ装備車の場合、その展開時には、乗員とドアの間のスペースでサイド・エアバッグが強い力で膨らみます。これにより乗員が負傷することがあります。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。

シートベルト・システム

運転に自信がある方も、短い距離を走行する場合も、シートベルトを使用してください。未熟なドライバーの起こした事故に巻き込まれることもあります。事故は、近距離、長距離にかかわらず発生する可能性があります。

交通事故の調査によって、シートベルトが衝突時に人命を救い、事故による傷害の程度を軽減していることがわかっています。車外へ投げ出されてしまうような事故では、重傷を負う可能性が高くなります。シートベルトはこうした車外への投げ出しから乗員を守り、車内での打撲傷の危険を低減します。車内のすべての乗員が常にシートベルトを使用していることを確認してください。

シートベルト非着用高度警告システム

フロント／リヤ・シート BeltAlert - タイプ別装備

フロント・シート BeltAlert



BeltAlert は、運転者と助手席ドア側の乗員にシートベルトの着用を警告する機能です。シートベルト警告機能は、イグニッション・スイッチが「START」位置または「ON/RUN」位置になっているときに作動します。

初期通知

イグニッション・スイッチを最初に「START(始動)」位置または「ON/RUN(オン/走行)」位置にしたときに運転者がシートベルトを着用していない場合、チャイムが数秒間鳴ります。イグニッション・スイッチを最初に「START」位置または「ON/RUN」位置にしたときに運転者または助手席の乗員がシートベルトを

着用していない場合、各シートベルト警告灯が赤色で点灯し、シートベルトが着用されるまで赤色のままで点灯し続けます。それぞれのシートベルト警告灯は、それぞれのシートベルトがバックルに差し込まれると、緑色に変わります。運転者または助手席乗員がシートベルトを着用すると、すべてのシートベルト警告灯が消灯します。助手席に乗員がいない場合、助手席シートベルト警告は作動しません。

BeltAlert 警告シーケンス

車両の走行速度が規定の車速範囲を超えた状態で運転者または助手席乗員がシートベルトを外すと、シートベルト警告作動が開始します(助手席乗員のシートベルト警告は、助手席に乗員がいない場合は作動しません)。各シートベルト警告灯の点滅と断続的なチャイムによるシートベルト警告作動が開始します。シートベルト警告作動が完了すると、シートベルト警告灯が赤色で点灯し、運転者または助手席乗員がシートベルトを着用するまで消灯しません。シートベルト警告の警告作動は、運転者または助手席に着座している乗員のシートベルトのバックルが差し込まれるまで、車速に応じて繰り返し作動することがあります。運転者はすべての乗員にシートベルトを着用するよう指示してください。

着用状態の変化

車両走行中に運転者または助手席乗員がシートベルトを外した場合、シートベルトのバックルが再度差し込まれるまでシートベルト警告作動が行われます。

助手席に乗員がいない場合、助手席シートベルト警告は作動しません。シートベルト警告は、ペットまたはその他の物体を助手席に載せた場合や、シートを折りたたんだ場合(タイプ別装備)に作動することがあります。ペットは、ペット・ハーネスでリヤ・シート(タイプ別装備)に拘束するか、ペット・キャリヤに入れシートベルトで固定することをお勧めします。また、荷物は正しく収納してください。

リヤ・シート BeltAlert

リヤ・シートベルト警告は、リヤ・シートのシートベルトのバックルが差し込まれているか、外れているかを運転者に伝えます。イグニッション・スイッチが「START」または「ON/RUN」位置のとき、各リヤ・シートの位置に対応するシートベルト警告灯が点灯します。シートベルトがバックルに差し込まれると、その座席のシートベルト警告灯が緑色に点灯します。シートベルトのバックルが外されると、その座席のシートベルト警告灯が赤色に点灯します。走行し始めたときに差し込まれていた後部座席のシートベルトのバックルが外されると、チャイムが1回鳴り、その座席に対応するシートベルト警告灯の表示が緑色の点灯から赤色の点滅に変わります。これにより、後部座席のシートベルトのバックルが再び差し込まれるまで車両を停止するよう、運転者に警告します。運転者または助手席乗員がシートベルトを着用すると、すべてのシートベルト警告灯が消灯します。

ラップ／ショルダ・ベルト

すべてのシートには3点式シートベルトが装備されています。

シートベルト・ウェビングのリトラクタがロックされるのは、急停止や衝撃を受けたときのみです。通常の状態では、肩部分のシートベルトは、自由に引き出すことができます。しかし衝突時にはシートベルトがロックし、車内で衝突したり車外に投げ出されたりする危険を低減します。

警告!

- エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。エアバッグは、シートベルトと共に使用したときに初めて効果をもたらします。エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。エアバッグが装備されているでも、必ずシートベルトを使用してください。
- シートベルトを正しく使用していないと、衝突の際に運転者および乗員が重傷を負う恐れがあります。事故の状況によっては、車内各部や他の乗員にぶつかったり、車外に放り出されることも考えられます。運転者やすべての乗員が、シートベルトを正しく使用していることを常に確認してください。
- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。運転者を含む乗員は、エアバッグの有無に関わらず、常にシートベルトを着用し、衝突した場合に重傷を負う、あるいは死亡する危険性を最小限にする必要があります。
- シートベルトの着用が適切でないと、衝突の際に大けがをする恐れがあります。内臓に傷害を受けたり、体がシートベルトからすり抜けてしまうことがあります。安全にシートベルトを使用し、乗員の安全を守るためにも、ここでの説明に従ってください。
- 1本のシートベルトを2人で使用しないでください。1本のベルトを2人で使用すると、衝突の際お互いにぶつかり合い、双方とも重傷を負うことがあります。3点式シートベルトまたはラップ・ベルトは、体の大きさに関係なく、必ず1人でご使用ください。

警告!

- 腰を通るベルトの位置が高すぎると、衝突の際にけがをする危険性が高くなります。シートベルトの衝撃を丈夫な腰と骨盤ではなく、腹部で受けることになります。シートベルトはできるだけ低い位置に、ぴったりと着用してください。
- シートベルトがねじれていると乗員が正しく保護されないことがあります。衝突の際などベルトが体に食い込むことがあります。シートベルトがねじれておらず、体に対して平らになっていることを確認してください。シートベルトのねじ

(続き)

警告!

れが直らない場合は、直ちにジープ正規ディーラーで修理を受けてください。

- シートベルトを間違ったバックルに留めると、体が正しく保護されません。腰を通るベルトが高くなり、内臓に傷害を与える恐れがあります。シートベルトは、正しいバックルに差し込んでください。
- シートベルトが緩すぎると正しく保護されません。突然の停止時に体が大きく前方に移動して、けがをする恐れが高くなります。シートベルトは、体に密着するように使用してください。
- 脇の下でシートベルトを使用するのは危険です。衝突の際に体が車内で叩き付けられ、頭部や首にけがをする危険性が高くなります。また、脇の下に通したシートベルトによって内臓に傷害を負う恐れもあります。肋骨は、肩の骨ほど強くありません。衝突の力を最も強い肩の骨で受け止めるように、シートベルトは肩の上を通してください。
- 肩を通るベルト部分を体の後ろにまわすと、衝突の際にけがから身を守ることができません。肩を通るベルトを使用していない場合、衝突の際に頭部を打ちつける危険が高くなります。3点式シートベルトは、必ず腰回りと肩にかけて使用してください。
- 磨耗したり、切れかかっているシートベルトは衝突の際に破断し、乗員を保護できません。シートベルトは定期的に点検し、切れや磨耗、緩んだ部品などがいないことを確認してください。損傷している部品は、直ちに交換してください。シートベルト・システムを分解したり、改造したりしないでください。車両が衝突事故に遭った場合、またはシートベルトやリトラクタの状態に疑問がある場合は、ジープ正規ディーラーで車両の検査を受けてください。

ラップ・ショルダ・ベルトの使い方

1. 車に乗って、ドアを閉めます。シートに深く座り、シートの位置を調節します。
2. シートベルト・ラッチ・プレートは、フロント・シートの背もたれの側方上部、およびリヤ・シートの横にあります。ラッチ・プレートを持ち、シートベルトを引き出します。シートベルトが腰を覆うのに十分なだけラッチ・プレートをシートベルト上でスライドさせます。



ラッチ・プレートの引き出し

3. シートベルトの長さが十分になったら、ラッチ・プレートのカチッという音がするまでバックルに差し込みます。



バックルへのラッチ・プレートの差し込み

4. ラップ・ベルトを、腹部の下の腰の低い位置に密着するように使用します。ラップ・ベルトの緩みをなくすには、ショルダ・ベルトを少し引き上げます。ラップ・ベルトがきつすぎるときに緩めるには、ラッチ・プレートを傾けてラップ・ベルトを引っ張ります。シートベルトをぴったりと使用することにより、衝突の際に体がシートベルトをすり抜けてしまう危険性が低くなります。



ラップ・ベルトの位置調整

5. 肩を通るベルトは肩と胸のまわりの隙間が最小限になるように使用してください。緩みは苦しくない程度にし、首にかからないようにします。リトラクタが肩を通るベルトの余分な緩みを巻き取ります。
6. シートベルトを外すには、バックルの赤いボタンを押します。シートベルトは、自動的に収納位置に引き込まれます。シートベルトが完全に戻らない場合は、ラッチ・プレートを一度下に引いてから放すときれいにベルトが巻き取られます。

ラップ/ショルダ・ベルトのねじれ修正手順

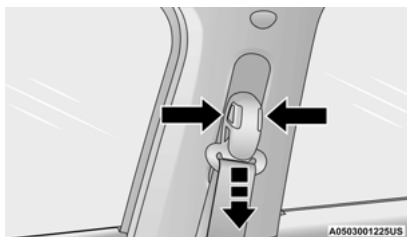
次の手順に従って、3 点式シートベルトのねじれを修正します。

1. ラッチ・プレートをできるだけアンカ・ポイントの近くへ移動させます。
2. ラッチ・プレートから約 6～12 インチ (15～30 cm) 上を持ち、シートベルト・ウェビングを 180 度ねじってラッチ・プレートのすぐ上に折り目を付けます。

3. ラッチ・プレートを上方へスライドさせ、ベルトの折れた部分を通して。ベルトの折れた部分は、ラッチ・プレートの上端部にあるスロットに入らなければいけません。
4. ラッチ・プレートを、ベルトの折れた部分が通過し、シートベルトにねじれがなくなるまでスライドさせてください。

アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカ

運転席シートおよび助手席シートのショルダ・ベルトでは、その上部を上下に調節することによって、首から離れた位置でシートベルトを着用することができます。アンカ・ボタンを押すか強く握ってアンカを緩め、次にアンカを上下に動かして最適な位置に調節します。



アジャスタブル・アンカ

目安として、平均よりも身長が低い場合はショルダ・ベルト・アンカを低めに、身長が高い場合は高めに調節することをお勧めします。アンカ・ボタンを緩めた後は、アンカを上下方向に軽く引っ張り、固定されていることを確認してください。

メモ:

アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカには、イーザー・アップ機能が備わっています。この機能により、リリース・ボタンを押したり強く握ったりしなくても、ショルダ・ベルト・アンカを上の方に調整できます。ショルダ・ベルト・アンカが固定されているかを確認するには、ロックされる位置までベルト・アンカを下方向に引っ張ります。

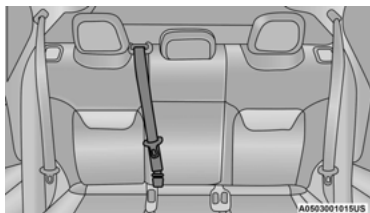
警告!

- シートベルトの着用が適切でないと、衝突の際に大けがをする恐れがあります。内臓に傷害を受けたり、体がシートベルトからすり抜けてしまうことがあります。安全にシートベルトを使用し、乗員の安全を守るためにも、ここでの説明に従ってください。
- 肩を通るベルトは肩と胸のまわりの隙間が最小限になるように使用してください。緩みは苦しくない程度にし、首にかからないようにします。リトラクタが肩を通るベルトの余分な緩みを巻き取ります。
- シートベルトを正しく着用しないと、衝突時の安全ベルトの有効性を損ないます。
- 必ず車両が停止しているときに、シートベルトの高さを調整してください。

2 列目中央シート・ベルトの操作方法

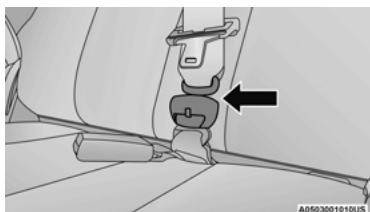
2 列目中央シート・シートベルトには、ミニ・ラッチ・プレートとバックルの付いたシートベルトが使われています。ミニ・ラッチ・プレートとバックルが装備されている場合、常につないだままにしておく必要があります。ミニ・ラッチ・プレートがバックルから外れている場合は、乗員がリヤ中央シートベルトを使用する前に適切につなぎ直してください。

1. ミニ・ラッチ・プレートを掴み、シートベルトをシートの上に引き出します。



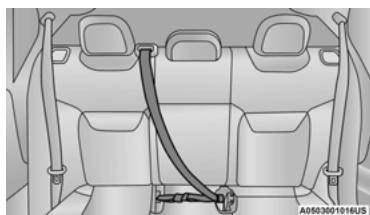
ラッチ・プレートの引き出し

2. シートベルトの長さが十分になったら、ミニ・ラッチ・プレートをカチッという音がするまでミニ・バックルに差し込みます。

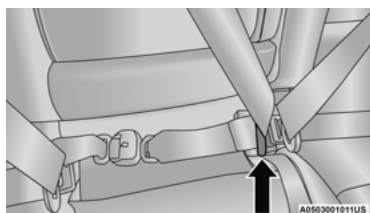


ミニ・ラッチ・プレートをミニ・バックルに差し込む

3. シートに深く座ります。シートベルトが腰を覆うのに十分なだけラッチ・プレートをベルト上でスライドさせます。
4. シートベルトの長さが十分になったら、ラッチ・プレートをカチッという音がするまでバックルに差し込みます。

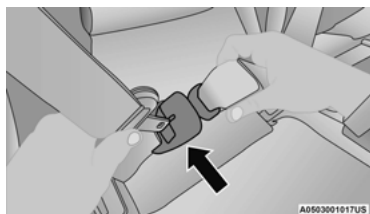


バックルへのラッチ・プレートの差し込み



バックルへのラッチ・プレートの差し込み

5. ラップ・ベルトを、腹部の下の方の低い位置に密着するように使用します。ラップ・ベルトの緩みをなくすには、ショルダ・ベルトを少し引き上げます。ラップ・ベルトがきつすぎるときに緩めるには、ラップ・ベルトを引っ張ります。シートベルトをびったりと使用することにより、衝突の際に体がシートベルトをすり抜けてしまう危険性が低くなります。
6. ショルダ・ベルトは首にかからないように、胸部の苦しくならない位置に使用します。リトラクタがシートベルトの余分な緩みを巻き取ります。
7. シートベルトを外すには、バックルの赤いボタンを押します。
8. ミニ・バックルからミニ・ラッチ・プレートを外すには、標準ラッチ・プレートをミニ・バックルの中央の赤いスロットに差し込みます。



シートベルトの凸部を使ってミニ・バックルを外す

警告!

- 乗員がシートベルトを使用する際にミニ・ラッチ・プレートとミニ・バックルを正しく留めなかつ

(続き)

警告!

た場合、シートベルトによる適切な拘束力を得ることができず、衝突時に負傷する危険性が高まります。

- ミニ・ラッチ・プレートとミニ・バックルを留め直す場合は、ベルト・ウェビングがねじれていないことを確認してください。ベルトがねじれている場合は、前述の手順に従ってミニ・ラッチ・プレートとミニ・バックルを外して、ベルトのねじれを修正し、ミニ・ラッチ・プレートとミニ・バックルを留め直してください。

妊娠中の方のシートベルト着用



妊娠中の方のシートベルト着用

妊娠中の方を含め、シートベルトはすべての乗員が着用するようにしてください。万が一事故に遭った場合でも、シートベルトを着用することによって母親と胎児への負傷の可能性が低減されます。

ラップ・ベルトは、下腹部に密着させ、強固な腰骨部に当たるように着用してください。ショルダ・ベルトは、胸部を横切るように、首から離して着用してください。ショルダ・ベルトは、絶対に背中や後ろに回したり、腕の下に通したりしないでください。

シートベルト・プリテンショナ

フロントシートのシートベルト・システムにはプリテンショナ装置が装備されており、衝突時にシートベルトのたるみを取り除くように設計されています。この装置は、衝突時に早めにシートベルトのたるみを取り除くことによってシートベルトの性能を向上させます。プリテンショナは、チャイルド・シートに座っているお子さまを含むあらゆる体形の人に対して有効です。

メモ:

これらの装置は、乗員による正しいシートベルトの使用に代わるものではありません。シートベルトは、必ず正しい位置で体に密着させて使用してください。

プリテンショナは、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)により作動します。エアバッグ同様、プリテンショナは1回の使い切り部品です。作動したプリテンショナまたはエアバッグは、すぐに交換する必要があります。

衝突エネルギー低減機能

フロントシートのシートベルト・システムには衝突エネルギー低減機能があり、衝突時にけがをする危

険性をさらに低減させるのに役立ちます。シートベルト・システムはリトラクタ・アセンブリを備えており、ベルトを緩める力を制御するように設計されています。

補助拘束装置(SRS)

このセクションで説明されている一部の安全機能は、一部のモデルでは標準装備されていますが、オプション装備のモデルもあります。標準装備されているか不確かな場合は、ジープ正規ディーラーでご確認ください。

エアバッグ・システムは衝突時に乗員を保護します。乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、エアバッグ・システムの電気構成部品に関係する内部回路と相互接続配線を監視します。お客様の車両には、以下のエアバッグ・システム構成部品が装備されている場合があります。

エアバッグ・システムの構成部品

- 乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)
- エアバッグ警告灯
- ステアリング・ホイールおよびコラム
- インストルメント・パネル
- ニー・インパクト・ボルス・タイプ別装備
- 運転席および助手席エアバッグ
- シートベルト・バックル・スイッチ
- サプリメンタル・サイド・エアバッグ
- 正面および側面衝突センサ
- シートベルト・プリテンショナ
- シート・レール位置センサ

エアバッグ警告灯



乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、イグニッション・スイッチが「START(始動)」位置または「ON/RUN(オン/走行)」位置になっているときに、エアバッグ・システムの電子部品の作動可能状態をモニタします。イグニッション・スイッチが「OFF」位置のときは、エアバッグ・システムは作動せず、膨らみません。

ORCに内蔵されたバックアップ電源供給システムにより、バッテリーが上がり、エアバッグの展開前に切り離されたりした場合でも、エアバッグ・システムを展開させることが可能です。

ORCは、イグニッション・スイッチが最初に「ON/RUN(オン/走行)」位置になったときに、約4~8秒間インストルメント・パネルのエアバッグ警告灯を点灯させて自己点検を行います。自己点検後、エアバッグ警告灯は消灯します。ORCがシステム内のどこかに不具合を検知すると、エアバッグ警告灯は瞬間的または継続的に点灯します。最初の始動後に警告灯が再度点灯した場合は、チャイムを1回鳴らして警告を発します。

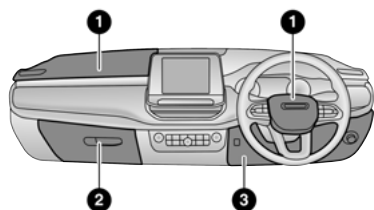
ORCには診断機能も備わっており、エアバッグ・システムに影響を与える可能性のある不具合が検出された場合はインストルメント・パネル内のエアバッグ警告灯が点灯します。この診断機能は、不具合の性質の記録も行います。エアバッグ・システムは

メンテナンス・フリーですが、次のような場合には直ちにジープ正規ディーラーにて点検を受けてください。

- イグニッション・スイッチが最初に「ON/RUN(オン/走行)」位置になったときに、エアバッグ警告灯が4〜8秒間点灯しない場合
- イグニッションを「ON」位置にした後4〜8秒経ってもエアバッグ警告灯が点灯したままの場合
- 運転中、エアバッグ警告灯が断続的に点滅または点灯する場合

メモ:

スピードメータやタコメータなどエンジン関連の計器が機能しない場合、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)も無効になっていることがあります。その場合、エアバッグが作動せず、衝突時に乗員が守られない危険があります。直ちにジープ正規ディーラーでエアバッグ・システムを適切に整備してください。



A0503001049US

フロント・エアバッグ/ニー・ボルスタの位置

- 1 - 運転席および助手席のフロント・エアバッグ
- 2 - 助手席ニー・インパクト・ボルスタ(タイプ別装備)
- 3 - 運転席ニー・インパクト・ボルスタ(タイプ別装備)

警告!
インストルメント・パネルのエアバッグ警告灯が点灯していると、衝突時にエアバッグ・システムによる保護が得られない場合があります。イグニッション・スイッチを最初に ON にしたときに、警告灯が点灯(電球点検のため)しなかったり、車両始動後も点灯し続けたり、運転中に点灯したときには、直ちにジープ正規ディーラーでエアバッグ・システムの点検を受けてください。

エアバッグ予備警告灯



エアバッグ警告灯に異常が検知され、それが補助拘束装置(SRS)に影響を与える可能性がある、インストルメント・パネルのエアバッグ予備警告灯が点灯します。エアバッグ予備警告灯は、異常が解消されるまで点灯し続けます。さらに、エアバッグ予備警告灯が点灯し、異常が検知されていることを運転者に警告するチャイムが1回鳴ります。運転中、エアバッグ予備警告灯が断続的に点滅または点灯し続ける場合、直ちにジープ正規ディーラーで車両の整備を受けてください。

フロント・エアバッグ

この車両には、運転席および助手席の両方にフロント・エアバッグとラップ/ショルダ・ベルトが装備されています。フロント・エアバッグは、拘束装置であるシートベルトを補助するものです。運転席のフロント・エアバッグは、ステアリング・ホイールの中心に内蔵されています。助手席のフロント・エアバッグは、グローブ・ボックスの上のインストルメント・パネルに内蔵されています。「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」という文字がエアバッグ・カバーの上に浮き彫り加工されています。

警告!
● ステアリング・ホイールやインストルメント・パネルに接近しすぎると、フロント・エアバッグが展開した際に重傷または死亡事故につながるおそれがあります。エアバッグが膨らむには、ある程度の空間が必要です。ステアリング・ホイールやインストルメント・パネルに向かってゆったりと腕を伸ばせるくらいに深く座ってください。 ● 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。 ● お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。 ● 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。 ● 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。

運転席および助手席のフロント・エアバッグ機能

運転席および助手席フロント・エアバッグ・システムでは、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)が正面衝突センサ(タイプ別装備)または他のシステム構成部品から情報を受信して、衝突の程度と種類に応じて展開するよう設計されています。

警告!

- インstrument・パネルまたはステアリング・ホイールのエアバッグ・カバーの上または近くに物を置かないでください。衝突時にエアバッグが膨張した際に、これらの物によってけがをす恐れがあります。
- エアバッグ・カバーの周辺やその上に物を置かないでください。またエアバッグ・カバーを手で開けないでください。エアバッグを傷つけるだけでなく、万一の際に機能せず負傷する恐れがあります。エアバッグ・クッションの保護用カバーは、エアバッグが作動した場合のみ開く設計になっています。
- エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。エアバッグは、シートベルトと共に使用したときに初めて効果をもたらします。エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。エアバッグが装備されていても、必ずシートベルトを使用してください。

フロント・エアバッグの作動

フロント・エアバッグは、シートベルトを補助することにより、保護効果を高めるように設計されています。フロント・エアバッグでは、後面衝突、側面衝突、または横転の際の負傷の危険性を減らす効果は期待できません。フロント・エアバッグは、すべての正面衝突で作動するわけではありません。このような衝突には、ポールとの衝突、トラックへのもぐりこみ、斜めオフセット衝突など、車両にかなりの損傷が生じる衝突などがあります。

その一方で、衝撃の種類と位置によっては、車両前部の損傷が軽微でも初期減速度が著しい衝突においては、フロント・エアバッグが作動することもあります。

エアバッグ・センサは時間に対する車両の減速度を計測するため、車速および損傷だけで、エアバッグ展開の要否を判断することはできません。

シートベルトは、あらゆる衝突で乗員を保護するためだけでなく、膨張するエアバッグから離れた位置に乗員を保持するためにも必要です。

乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)がフロント・エアバッグの作動に必要な衝撃を検知すると、インフレーター・ユニットに信号を送ります。フロント・エアバッグは、大量の無害なガスにより膨張します。

エアバッグが完全に膨張すると、ステアリング・ホイール・ハブのトリム・カバーとインstrument・パネルの助手席側上部が外れて分離します。フロント・エアバッグは、まばたきよりも短時間で完全に膨らみます。膨張したフロント・エアバッグは、運転者と助手席の乗員を受け止めた後、直ちに収縮します。

助手席側エアバッグ無効機能 — タイプ別装備

フロント・シートにチャイルド・シートを取り付けなければならない場合、このシステムでは助手席側フロント・エアバッグを無効(OFF)にできます。助手席側フロント・エアバッグを無効(OFF)にするのは、どう

でもフロント・シートにチャイルド・シートを取り付けなければならない場合のみにしてください。12歳以下のお子さまは、できるだけリヤ・シートでシートベルトを正しく使用させるようにしてください。衝突事故の統計によると、お子さまはフロント・シートよりもリヤ・シートでチャイルド・シートに座らせたほうが、より安全であることが確認されています。

警告!

- 「DISABLED (OFF) (無効(オフ))」では、助手席側フロント・エアバッグは作動解除され、衝突時に展開しません。
- 「DISABLED (OFF) (無効(オフ))」では助手席側フロント・エアバッグは、シートベルトを補助することで助手席の保護効果を高めることはしません。
- センタ・スタックの助手席側エアバッグ「DISABLED (OFF) (無効(オフ))」表示灯が^{OFF}点灯し、助手席側フロント・エアバッグが「DISABLED (OFF) (無効(オフ))」であることを示していない限り、フロント・シートにチャイルド・シートを装着しないでください。
- シートベルトを正しく使用していないと、衝突の際に運転者および乗員が重傷を負う恐れがあります。事故の状況によっては、車内各部や他の乗員にぶつかったり、車外に放り出されることも考えられます。運転者やすべての乗員が、シートベルトを正しく使用していることを常に確認してください。

助手席側フロント・エアバッグは、インstrument・パネル・ディスプレイ・メニューの該当する設定を選択することによって、有効(ON)または無効(OFF)にできます。

助手席側エアバッグ無効機能には、以下のものが含まれます。

- 乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)
-  助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯 - センタ・スタックにある黄色の表示灯
-  助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯 - センタ・スタックにある黄色の表示灯
-  エアバッグ警告灯 - インstrument・パネル・ディスプレイにある黄色の警告灯

乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、イグニッション・スイッチが「START(始動)」位置または「ON/RUN(オン/走行)」位置になっているときに、エアバッグ・システムの電子部品の作動可能状態をモニタします。ORCは、イグニッション・スイッチを最初に「START(始動)」または「ON/RUN(オン/走行)」位置にしたとき、センタ・スタックの助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯と助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯を約5~8秒間点灯させ、自己点検を行います。自己点検が終わると表示灯が点灯し、助手席側フロント・エアバッグの状態を運転者と助手席乗員に伝えます。次のような場合、直ちに正規

ディーラーでエアバッグ・システムを適切に整備してください。

- イグニッションを最初に「START(始動)」または「ON/RUN(オン／走行)」位置にしたとき、どちらの表示灯も自己点検のために点灯しない。
- 車両を始動した後、両方の表示灯が点灯し続ける。
- 車両を始動した後、両方の表示灯が消灯し続ける。
- 走行中に両方の表示灯が点灯する。
- 走行中に両方の表示灯が消灯する。

自己点検が終了すると、どちらかの助手席側エアバッグ表示灯のみが点灯します。

警告!
助手席側エアバッグ表示灯に問題があることを示す上記のいずれかの状況が発生している場合、助手席側高度フロント・エアバッグは最後を選択されていた状態(無効または有効)のままになります。

 助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯

助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯(センタ・スタックにある黄色の表示灯)は、助手席側フロント・エアバッグが解除されていることを運転者と助手席乗員に伝えます。センタ・スタックの助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯  が点灯している場合、衝突時に助手席側フロント・エアバッグが展開しないことを示しています。センタ・スタックの助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯  が点灯していない場合は、助手席側フロント・エアバッグが無効であると思わないでください。

 助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯

助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯(センタ・スタックにある黄色の表示灯)は、助手席側フロント・エアバッグが作動可能な状態であることを運転者と助手席乗員に伝えます。センタ・スタックの助手席側

エアバッグ有効(ON)表示灯  が点灯している場合、エアバッグの展開を要する衝撃が発生すると助手席側フロント・エアバッグが展開することを示しています。センタ・スタックの助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯  が点灯していない場合は、助手席側フロント・エアバッグが有効であると思わないでください。

警告!
● 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。 ● お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。 ● 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。 ● 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。 ● 12歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。

助手席側フロント・エアバッグを無効(OFF)にする

助手席側フロント・エアバッグを無効(OFF)にするには、ステアリング・ホイールの上下矢印ボタンを押して、インストルメント・パネルにあるインストルメント・パネル・ディスプレイのメイン・メニューにアクセスし、以下の作業を行います。

アクション	情報
「Vehicle Set-Up(車両設定)」まで上下にスクロールします	
車両のステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Vehicle Settings(車両設定)」を開きます	
ステアリング・ホイールの矢印ボタンを使って上下にスクロールし、「Security(セキュリティ)」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Security(セキュリティ)」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG(助手席側エアバッグ)」を選択します	

アクション	情報
「Passenger AIRBAG OFF(助手席側エアバッグ OFF)」( OFF)まで上下にスクロールします	メモ： 以前に助手席側フロント・エアバッグを有効(ON)にしていた場合は初期設定で「ON(オン)」になるため、下にスクロールして「OFF(オフ)」を選択する必要があります。
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG OFF(助手席側エアバッグ OFF)」( OFF)を選択します	
上下にスクロールして、確定するために「YES(はい)」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「YES(はい)」を選択します	メモ： この操作を 1 分以内に行わないと、この選択内容が無効になり、手順を最初から繰り返さなければなりません。
	チャイムが 1 回鳴り、助手席側エアバッグ無効(OFF)  表示灯が 4~5 秒間点灯し、助手席側フロント・エアバッグが無効になったことを通知します。 助手席側エアバッグ無効(OFF)  表示灯はセンタ・スタック内で常時点灯し続け、助手席側フロント・エアバッグが無効(OFF)になっていることを運転者と助手席乗員に伝えます。

上記の表の作業に従うことで、助手席側フロント・エアバッグが無効(OFF)になります。センタ・スタックの助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯  が点灯している場合、衝突時に助手席側フロント・エアバッグが展開しないことを示しています。

助手席側フロント・エアバッグを有効(ON)にする

ステアリング・ホイールの上下矢印ボタンを押して、インストルメント・パネルにあるインストルメント・パネル・ディスプレイのメイン・メニューにアクセスし、以下の作業を行ないます。

アクション	情報
「Vehicle Set-Up(車両設定)」まで上下にスクロールします	
車両のステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Vehicle Settings(車両設定)」を開きます	
ステアリング・ホイールの矢印ボタンを使って上下にスクロールし、「Security(セキュリティ)」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Security(セキュリティ)」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG(助手席側エアバッグ)」を選択します	
「Passenger AIRBAG ON(助手席側エアバッグ ON)」( = ON)まで上下にスクロールします	メモ： 以前に助手席側フロント・エアバッグを無効(OFF)にしていた場合は初期設定で「OFF(オフ)」になるので、下にスクロールして「ON(オン)」を選択する必要があります。

アクション	情報
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG ON(助手席側エアバッグ ON)」( ON)を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Yes (はい)」を選択します	メモ： この操作を 1 分以内に行わないと、この選択内容が無効になり、手順を最初から繰り返さなければならなくなります。
	チャイムが 1 回鳴り、助手席側エアバッグ有効 (ON)  表示灯が 4~5 秒間点灯し、助手席側フロント・エアバッグが有効になったことを通知します。 助手席側エアバッグ有効 (ON) 表示灯  はセンタ・スタック内で常時点灯し続け、助手席側フロント・エアバッグが有効 (ON) になっていることを運転者と助手席乗員に伝えます。

上記の表の作業に従うことで、助手席側フロント・エアバッグが有効 (ON) になります。センタ・スタックの助手席側エアバッグ有効 (ON) 表示灯  が点灯している場合、エアバッグの展開を要する衝撃が発生すると助手席側フロント・エアバッグが展開することを示しています。

警告!
● 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。 ● お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。 ● 助手席に取り付けた後ろ向きチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。 ● 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。 ● 12 歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。

ニー・インパクト・ボルスタ

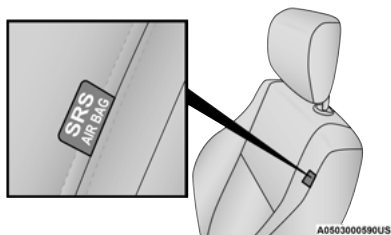
ニー・インパクト・ボルスタは、運転者と助手席乗員の膝を保護するとともに、フロント・エアバッグの効果を高める姿勢に保ちます。

警告!
● ニー・インパクト・ボルスタにドリルで穴を開けたり、切断したり、改造したりすることは絶対にしないでください。 ● ニー・インパクト・ボルスタに警告灯やステレオ、CB 無線などのアクセサリ類を取り付けしないでください。

Supplemental Seat-Mounted Side Air Bags(サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ) (SAB) - タイプ別装備

この車両には、モデルによってサプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ (SAB) が装備されています。サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ (SAB) が装備されている場合、以下の情報を参照してください。

サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ (SAB) はフロント・シートのドア側に内蔵されています。SAB が装備されている場合、シートのドア側のラベルまたはシート・トリムに、「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」というマークが縫い付けられています。



フロントのサプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ

SAB が装備されている場合は、SAB はシートベルトやボディ構造による負傷の軽減に加え、特定の側

面衝突時に乗員が負傷する危険性を低減するのに役立ちます。

SAB が展開するときは、シート・バックのトリム・カバーのドア側の縫い目が開きます。SAB は、シートの縫い目を裂いて展開し、乗員とドアの間の空間で膨張します。SAB は非常に速く強烈な力で作動するため、乗員が正しく座っていなかったり、SAB が膨張する空間に物が置いてある場合は、乗員が負傷する恐れがあります。お子さまの場合は、エアバッグの展開による負傷の危険性がさらに高まります。

警告!

後付けのシート・カバーを使用したり、体とサイド・エアバッグの間に物を置かないでください。十分な性能が得られなかったり、置いてあった物が身体に当たって負傷する恐れがあります。

サブリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ・インフレーター・カーテン (SABIC) - タイプ別装備

この車両には、モデルによってサブリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレーター・カーテン (SABIC) が装備されています。サブリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレーター・カーテン (SABIC) が装備されている場合、以下の情報を参照してください。

サブリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレーター・カーテン (SABIC) はウィンドウ上部に内蔵されています。SABIC を覆うトリムには、「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」というラベルが付いています。



サブリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレーター・カーテン (SABIC) のラベル位置

SABIC (タイプ別装備) は、シートベルトや車体構造による潜在的な負傷の軽減に加え、特定の側面衝突時におけるフロントおよびリヤ・シートのドア側乗員の頭部などへの負傷の危険性を軽減するうえで役立ちます。

SABIC は下向きに展開され、ドアウィンドウを覆います。膨張した SABIC は、ヘッドライナの周囲を外に向かって押し出し、窓を覆います。SABIC は強い力で膨張するため、乗員がシートベルトを着用せず正しく座っていなかったり、SABIC が膨張する空間に物が置いてある場合は、乗員が負傷する恐れがあります。お子さまの場合は、エアバッグの展開による負傷の危険性がさらに高まります。

SABIC (タイプ別装備) は、特定の側面衝突時にドアウィンドウから車両の乗員の体の一部またはすべてが飛び出す危険性を軽減するうえで役立ちます。

警告!

- SABIC の展開を妨げる高さに装置を取り付けたり、物や荷物を積み重ねたりしないでください。SABIC が収納されており SABIC 展開範囲となるドアウィンドウ上を覆うトリム付近には、障害物を置かないでください。
- SABIC が意図された通りに機能するように、車両のルーフを変形させるようなアクセサリを取り付けしないでください。車両には後付サンルーフを取り付けしないでください。車両ルーフに設置する際に、固定用部品 (ボルトまたはスクリュー) を必要とするようなルーフ・ラックを取り付けしないでください。車両ルーフには、絶対に穴をあけないでください。

側面衝突

サイド・エアバッグは、特定の側面衝突時に起動するように設計されています。乗員保護拘束装置コントロール (ORC) は、特定の側面衝突時におけるサイド・エアバッグの展開が適切であるかどうかを、衝突の程度と種類に応じて判断します。ORC は側面衝突センサを使用して、発生した衝突に対して適切な応答を決定します。システムは、サイド・エアバッグによる乗員保護が必要な衝撃に対して、車両の衝突した側のサイド・エアバッグを作動させるよう調整されています。側面衝突では、サイド・エアバッグはそれぞれ独立して展開します。左側の衝突では左側のサイド・エアバッグのみが展開し、右側の衝突では右側のサイド・エアバッグのみが展開します。車両の損傷自体は、サイド・エアバッグが展開するべきかどうかの十分な指標とはなりません。

サイド・エアバッグは、すべての側面衝突で展開するわけではありません。車内に影響を及ぼさないような特定の角度での衝突や一部の側面衝突では、サイド・エアバッグは展開しません。サイド・エアバッグは、フロント・エアバッグが展開する場合でも、角度のあるまたはオフセットした正面衝突の際に展開する場合があります。

サイド・エアバッグは、シートベルトの補助的な拘束装置です。サイド・エアバッグは、人間が 1 回または 2 回を要する時間にもかかわらずに展開します。

警告!

- 乗員またはお子さまがサイド・エアバッグに接近し過ぎていると、重傷を負ったり、死にいたる恐れがあります。乗員とお子さまがドア、ドアウィンドウ、またはサイド・エアバッグが膨らむ範囲に寄りかかったり眠ったりしないでください。お子さまをチャイルド・シートに座らせている場合も寄りかからないように注意してください。
- シートベルト (および適切な場合はチャイルド・シート) はあらゆる衝突から乗員を保護するために必要です。また、シートベルトは膨張する

(続き)

警告!
サイド・エアバッグから離れた位置に乗員を保持するためにも役立っています。サイド・エアバッグから最大限保護されるように、乗員はシートベルトを必ず適切に着用し、シートに背中を付けてまっすぐ座ってください。お子さまは、お子さまの体格に合ったチャイルド・シートまたはブースター・シートに必ず正しく座らせてください。

警告!
● サイド・エアバッグが膨らむにはある程度の空間が必要です。ドアまたはウィンドウに寄りかからないでください。シートの中央にまっすぐ座ってください。 ● 展開中、サイド・エアバッグのすぐ近くにいると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。 ● サイド・エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。サイド・エアバッグは、シートベルトを適切に着用しているときに初めて効果をもたらします。サイド・エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。サイド・エアバッグが装備されているにもかかわらずシートベルトを使用してください。

メモ:

エアバッグのカバーは周囲の内装と見分けが付きませんが、万一のときには開いてエアバッグが展開します。

エアバッグ・システムの構成部品

メモ:

乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、電動エアバッグ・システムの電気構成部品に関係する内部回路と相互接続配線を監視します。

- 乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)
- エアバッグ警告灯 
- ステアリング・ホイールおよびコラム
- インストルメント・パネル
- ニー・インパクト・ボルスター・タイプ別装備
- 運転席および助手席エアバッグ
- シートベルト・バックル・スイッチ
- サプリメンタル・サイド・エアバッグ
- 正面および側面衝突センサ
- シートベルト・プリテンション
- シート・レール位置センサ

エアバッグが作動したとき

フロント・エアバッグは、展開後すぐに収縮するように設計されています。

メモ:

フロントまたはサイド・エアバッグは、衝突のレベルによっては作動しないことがあります。これはエアバッグ・システムの故障ではありません。

衝突によりエアバッグが作動すると、次のような事態が起こることがあります。

- エアバッグが膨張するとき、エアバッグの素材により乗員がすり傷を負ったり、皮膚が赤くなったりすることがあります。エアバッグによるすり傷は、ローブなどによる摩擦で起きるもの、またはカーペットや体育館の床で滑ったときにできるもの(擦過傷)と同じものです。化学物質との接触によるものではありません。一時的なもので、通常は短期間で治癒するものです。ただし、数日たっても良くならないときや水ぶくれができたときには、直ちに医師の診察を受けてください。
- エアバッグが収縮するとき、煙のような粉末が発生することがあります。この粉末は、エアバッグ膨張のために無害なガスが発生するときの副産物です。この粉末が、皮膚、目、鼻、のどなどを刺激することがあります。皮膚や目に刺激を感じたら、冷水で洗い流してください。鼻やのどがひりひりするときは、空気が新鮮な場所に移動してください。それでも刺激を感じるようであれば、医師の診察を受けてください。粉末が衣服に付着した場合は、衣服の表示に従ってクリーニングしてください。

エアバッグが作動した後は、その車を運転しないようにしてください。次に衝突に巻き込まれた際に、エアバッグが機能を果たしません。

警告!
一度作動したエアバッグおよびシートベルト・プリテンションは、次の衝突時には作動しません。直ちにエアバッグ・シートベルト・プリテンション、シートベルト・リトラクター・アセンブリをジープ正規ディーラーで交換してください。乗員保護拘束装置コントローラの整備もを受けてください。

メモ:

- エアバッグのカバーは周囲の内装と見分けが付きませんが、万一のときには開いてエアバッグが展開します。
- 衝突した場合には、直ちにジープ正規ディーラーに整備を依頼してください。

高度事故時反応システム

衝突時に、車両通信ネットワークおよび電源には問題がない場合、衝撃の性質に応じて、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は高度事故時反応システムを作動して次の機能を実行するかどうかを判断します。

- エンジンへの燃料供給停止(タイプ別装備)。
- 電動モーターへのバッテリー電力供給の停止(タイプ別装備)。
- ハザード警告灯の点滅(バッテリー電力が切れるまで)。
- 室内灯の点灯。室内灯は、バッテリー電源がなくなるまで、または高度事故時反応システムの介入から15分間点灯し続けます。
- パワー・ドア・ロックの解錠。

ご使用の車両は、高度事故時反応システムに反応して以下の他の機能のいずれかを実行するように設計されていることもあります。

- フューエル・フィルタ・ヒータをオフにする、HVAC ブロア・モータをオフにする、HVAC サーキュレーション・ドアを閉じる
- 以下のコンポーネントへのバッテリー電力供給を停止する。
 - エンジン
 - 電動モータ(タイプ別装備)
 - 電動パワー・ステアリング
 - ブレーキ・ブースタ
 - 電動パーキング・ブレーキ
 - オートマチック・トランスミッション・ギヤ・セレクト
 - ホーン
 - フロント・ワイパ

メモ:

事故の後には、バッテリーの消耗を避けるために、必ずイグニッションを停止 (オフ/ロック) 位置にしてください。システムをリセットしてエンジンを始動する前に、エンジン・ルーム内やエンジン・ルームおよび燃

料タンク付近の地面に燃料漏れがないか、車両を十分に点検してください。燃料漏れがなく、車両の電気装置 (ヘッドライトなど) に損傷がない場合は、以下の手順でシステムをリセットしてください。疑わしい場合は、ジープ正規ディーラーにお問い合わせください。

高度事故時反応システムのリセット手順

事故発生後にシステムが有効な場合、燃料のカットオフに関するメッセージが表示されます。イグニッション・スイッチを「AVV/START (AVV / 始動)」または「MAR/ON/RUN (MAR / オン / 走行)」から「STOP/OFF/LOCK (停止 / オフ / ロック)」に回します。システムをリセットしてエンジンを始動する前に、エンジン・ルーム内やエンジン・ルームおよび燃料タンク付近の地面に燃料漏れがないか、車両を十分に点検してください。

事故の種類に応じて、インストルメント・パネルにある左右両方の方向指示器が点滅していることがあり、その後も点滅を続けます。車両を路肩に寄せるには、システムのリセット手順に従う必要があります。

お客様の作業内容	車両の反応
メモ: それぞれの手順は 2 秒以上行う必要があります	
1.イグニッションを「STOP/OFF/LOCK (停止 / オフ / ロック)」に回します。(方向指示器スイッチはニュートラル状態にしておく必要があります。)	
2.イグニッションを「MAR/ON/RUN (MAR / オン / 走行)」に回します。	右側の方向指示器が点滅します。 左側の方向指示器は消灯します。
3.右側の方向指示器スイッチを ON にします。	右側の方向指示器が常時点灯します。 左側の方向指示器は点滅します。
4.方向指示器をニュートラル状態にします。	右側の方向指示器が消灯します。 左側の方向指示器は点滅します。
5.左側の方向指示器スイッチを ON にします。	右側の方向指示器が点滅します。 左側の方向指示器が常時点灯します。
6.方向指示器をニュートラル状態にします。	右側の方向指示器が点滅します。 左側の方向指示器は消灯します。
7.右側の方向指示器スイッチを ON にします。	右側の方向指示器が常時点灯します。 左側の方向指示器は点滅します。
8.方向指示器をニュートラル状態にします。	右側の方向指示器が消灯します。 左側の方向指示器は点滅します。
9.左側の方向指示器スイッチを ON にします。	右側の方向指示器が常時点灯します。 左側の方向指示器が常時点灯します。

お客様の作業内容	車両の反応
メモ: それぞれの手順は 2 秒以上行う必要があります	
10.左側の方向指示器スイッチを OFF にします。(方向指示器スイッチはニュートラル状態にしておく必要があります。)	右側の方向指示器が消灯します。 左側の方向指示器は消灯します。
11.イグニッションを「STOP/OFF/LOCK(停止／オフ／ロック)」に回します。	
12.イグニッションを「MAR/ON/RUN(MAR／オン／走行)」に回します。(一連の手順は 1 分以内に完了する必要があります。1 分を超えると、手順を最初から繰り返さなければならなくなります。)	これでシステムがリセットされ、エンジンの始動が可能になります。
非常点滅表示灯を手動で OFF にします。	

リセット手順を 60 秒以内に完了できなかった場合、方向指示器が点滅し、正常な状態に戻すために手順を最初から繰り返さなければならなくなります。

エアバッグ・システムのメンテナンス

警告!
- エアバッグ・システムを改造すると、万一のときに作動しない恐れがあります。必要なときにエアバッグ・システムが作動せず、負傷する恐れがあります。ステアリング・ホイール・ハブ・トリム・カバーやインストルメント・パネルの助手席側上部にバッジやステッカーなどを貼ったり、構成部品や配線を改造しないでください。フロント・バンパまたは車体構造を改造したり、アクセサリ部品のサイド・ステップまたはランニング・ボードを装着したりしないでください。 - お客様自身の手でエアバッグ・システムを修理することは危険です。車の整備を依頼するときは、整備士などにエアバッグ・システムが装備されていることを必ず伝えてください。 - エアバッグ・システムの部品は改造しないでください。改造を加えると、エアバッグが誤って膨張したり正常に機能しなかったりすることがあります。エアバッグ・システムの整備を受けるには、ジープ正規ディーラーに整備をご依頼ください。トリム・カバーやクッション付きのシートの整備(シート取り付けボルトの取り外しまたは緩め／締め付け)が必要な場合は、ジープ正規ディーラーに整備をご依頼ください。使用できるシート・アクセサリは、メーカー認定済みのものだけです。

事象データ・レコーダ(EDR)

この車は、事象データ・レコーダ(EDR)を装備しています。EDR の主な目的は、衝突または衝突に近い状況(エアバッグの展開または道路の障害物に当たるといった)が起こった際、車両のシステム作動状況を把握するのに役立つデータを記録することです。EDR は、車両のダイナミクスと安全システムに関

連するデータを短時間(通常、30 秒以下)の間記録するように設計されています。この車の EDR は、次のデータを記録するように設計されています。

- 車両の各種システムの作動状況
- 運転席または助手席シートベルトがバックルに差し込まれていた(着用されていた)かどうか
- 運転者がアクセル・ペダルやブレーキ・ペダルをどの程度踏み込んでいたか、またはまったく踏み込んでいなかったかどうか
- 車両の走行速度

これらのデータにより、衝突やけがの発生時の状況がわかりやすくなります。

メモ:

EDR データは、重要な衝突状況が発生した場合のみ車両で記録されます。通常の運転条件下ではデータは記録されません。また、個人情報(氏名、性別、年齢、衝突の場所)などは記録されません。ただし、法的機関などの他の関係者は事故調査中に通常取得される個人識別データと組み合わせてこの EDR データを使用する場合があります。

EDR に記録されたデータを読み取るには、専用の装置が必要で、車両または EDR にアクセスする必要があります。車のメーカーに加え、専用の装置を持っている法的機関などの他の関係者は、車両または EDR にアクセスできる場合に情報を読み取ることができま

チャイルド・シート — お子さまを安全に乘せるために



助手席サンバイザに貼付されている警告ラベル

車内では、乳幼児も含めて全員が常にシートベルトを着用してください。EC 指令 2003/20/EC では、すべての EC 諸国に対し、シートの適切な使用を求めています。

身長が 1.5m に満たない 12 歳以下のお子さまは、できるだけリヤ・シートでシートベルトを正しく締めて乗車させるようにしてください。衝突事故の統計によると、お子さまはフロント・シートよりもリヤ・シートでチャイルド・シートに座らせたほうが、より安全であることが確認されています。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。

(続き)

警告!

- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。
- 衝突の際には、チャイルド・シートなどにより保護されていないお子さまは、一瞬のうちに車内で放り出された状態になってしまう恐れがあります。衝突時にお子さまをひざの上で抱いて支えるには想像以上の力が必要となるため、どんなに力が強い方でも、お子さまを抱えきれません。お子さまのみならず他の乗員も重傷を負ったり死亡にいたる恐れがあります。お子さまの大きさに合った適正なチャイルド・シートで保護してください。

チャイルド・シートには、幼児用からある程度大きなお子さま用まで、様々なサイズとタイプがあります。お子さまはできる限り後ろ向きにお乗せください。後ろ向きは、衝突の際にお子さまをもっとも保護します。必ずチャイルド・シートの取扱説明書を読んで、お子さまに適切なシートかどうかを確認してください。チャイルド・シートの取扱説明書とチャイルド・シートに貼り付けられているすべてのラベルに記載された指示事項と注意事項すべてを十分に読んで従ってください。

欧州では、チャイルド・シートは ECE R44 基準によって定義されています。この中でチャイルド・シートは、次の 5 つの体重グループに分類されています。

グループ	年齢	体重グループ	サイズ・クラス／固定
グループ 0	9 か月までの表示	10 kg まで	ISO/L1 ISO/L2 ISO/R1
グループ 0+	2 歳までの表示	13kg まで	ISO/R1 ISO/R2 ISO/R3

グループ	年齢	体重グループ	サイズ・クラス／固定
グループ 1	8 か月～4 歳までの表示	9～18 kg	ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2 ISO/F2X ISO/F3
グループ 2	3～7 歳までの表示	15～25 kg	—
グループ 3	6～12 歳までの表示	22～36 kg	—

i-Size が装備されている場合、ECE R44 規格は ECE R-129 規定を補足するもので、i-Size チャイルド・シートの特性を定義しています（詳細については、「i-Size チャイルド・シートの使用に適した助手席」の項目を参照してください）。すべての拘束装置は、チャイルド・シートにしっかりと固定され絶対に外れることがないラベル上に、管理マークと一緒に型式認定データが記載されている必要があります。Jeep®の車両向けに特別に設計されているこれらの装置を推奨します。Lineaccessori Mopar®では、各体重グループ向けのチャイルド・シートを用意しています。

警告!

非常に危険です！ 作動可能なエアバッグの前に後ろ向きのチャイルド・シートを取り付けしないでください。詳細については、サンバイザーに貼られたラベルを参照してください。衝突の度合いに関係なく、事故時のエアバッグの展開により乳幼児が重傷を負ったり死亡する恐れがあります。お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。

警告!

助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、「Setup (セッティング)」メニューから助手席側フロント・エアバッグとサイド・バッグ（パージョン／市場に応じてタイプ別装備）の作動を解除する必要があります。作動解除はインストルメント・パネルに点灯した警告灯によって確認できます。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。

「ユニバーサル」チャイルド・シード

チャイルド・シートをこの車両に取り付ける場合は、事前にチャイルド・シート・システム情報一覧表を参照して、使用するチャイルド・シートの種類がシート位置に適合するかどうか確認してください。▶ ページ 30。

- 以下のセクションの図は、ユニバーサル・チャイルド・シートの各タイプの例です。一般的な取り付け方法が示されています。チャイルド・シートを取

り付ける際は、このタイプのシートに添付されているメーカーの説明書に必ず従ってください。

- ISOFIX アンカ付きのチャイルド・シートは、車両のシートベルトを使用せずに、車両に取り付けることができます。

グループ 0 および 0+

0-13 kg

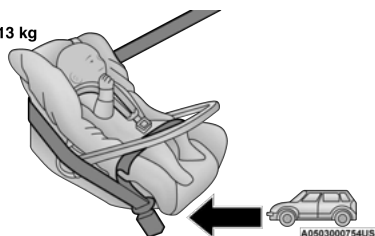


図 A

安全に関する専門家は、できるだけお子さまを車両内で後ろ向きに座らせることを推奨しています。体重が 13kg 未満の幼児は、図 A に示すチャイルド・シートのような後ろ向きシートに座らせる必要があります。このタイプのチャイルド・シートは、幼児の頭部をサポートし、急な減速や衝突時に首にストレスがかかりません。

後ろ向きチャイルド・シートは、図 A に示すように車両のシートベルトで固定します。お子さまは、チャイルド・シート自体のハーネスで拘束します。

警告!

- 作動可能なエアバッグの前に後ろ向きのチャイルド・シートを取り付けしないでください。助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートに座っているお子さまを含む、12 歳以下のお子さまが重傷を負ったり、死亡したりするおそれがあります。
- フロント・シートで後ろ向きのチャイルド・シートを使用する場合は、必ずフロント・エアバッグの作動を解除してください。

グループ 1

9-18 kg

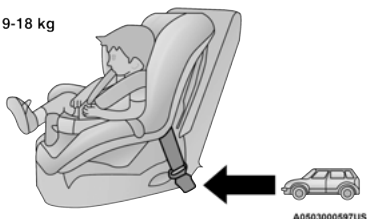


図 B

体重が 9kg～18kg のお子さまは、図 B に示すようなグループ 1 の前向きシートに乗せることができます。このタイプのチャイルド・シートは、グループ 0 または 0+ のチャイルド・シートが小さすぎる大きなお子さま向けです。

グループ 2

15-25 kg

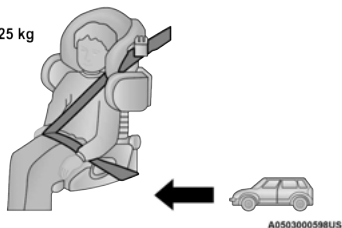


図 C

体重が 15kg～25kg で、グループ 1 のチャイルド・シートを使用するには大きすぎるお子さまは、グループ 2 のチャイルド・シートを使用することができます。

図 C に示すよう、グループ 2 のチャイルド・シートを使用することにより、ショルダ・ベルトがお子さまの首ではなく胸にかかり、ラップ・ベルトが腹部ではなく骨盤に密着するようにシートベルトを装着できます。

グループ 3

22-36 kg

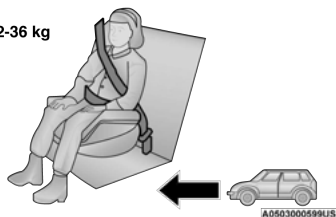


図 D

体重が 22kg～36kg で、大人用ショルダ・ベルトを無理なく着用できるだけの身長があるお子さまは、グループ 3 のチャイルド・シートを使用することができます。

ます。グループ 3 のチャイルド・シートでは、お子さまの骨盤の位置にラップ・ベルトを使用します。お子さまの身長は、ショルダ・ベルトが首ではなく、胸部にかかるだけの高さが必要です。

図 D は、グループ 3 チャイルド・シートのリヤ・シートでの正しい使用例を示しています。

警告!

- チャイルド・シートは、正しく取り付けないと機能しません。衝突の際にチャイルド・シートが外れ、お子さまが重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。チャイルド・シートの取り付けは、必ずチャイルド・シート・メーカーの指示に従ってください。
- 車両にチャイルド・シートを取り付けたら、車両のシートを前後に移動させないでください。これにより、チャイルド・シートの取り付け部が緩むことがあります。車両シートの位置を調整する場合は、チャイルド・シートを外してから行ってください。車両シートの位置を調整してから、チャイルド・シートを取り付けてください。
- チャイルド・シートをご使用にならない場合は、シートベルトまたは ISOFIX アンカで確実に固定するか、または車から降ろしてください。固定していない状態で車内にそのままにしないでください。急停止または事故の際に、シート・バックや乗員にぶつかり、乗員がけがをする恐れがあります。

大きなお子さまのシートベルトの使用

身長が 1.5m 以上あるお子さまは、チャイルド・シートではなくシートベルトを着用することができます。

以下の簡単な 5 段階のテストを使用して、お子さまがシートベルトを適切に使用できるか、またはシートベルトを正しく装着するにはまだグループ 2 または 3 のチャイルド・シートを使用する必要があるかご判断ください。

1. お子さまは、車のシート・バックに対していっぱいまで奥に座れますか？
2. お子さまの膝は、奥いっぱい座ったままで車のシート前部を越えて無理なく曲がりますか？
3. ショルダ・ベルトは、お子さまの首と腕の間で肩を横切りますか？
4. ベルトのラップ部分はなるべく低い位置にあって、お子さまの腹部ではなく大腿部に触れていますか？
5. お子さまは、全行程中このような状態で座っていられますか？

これらの質問に対する回答に「いいえ」がある場合、お子さまはまだこの車ではグループ 2 または 3 のチャイルド・シートを使用する必要があります。お子さまが 3 点式シートベルトを使用している場合、ときどきベルトの状態を点検し、シートベルト・バックルが固定されていることを確認して下さい。お子さまが動いたりかがんだりするとベルトの位置がずれます。ショルダ・ベルトがお子さまの顔や首にあたる場合は、お子さまを車の中央寄りに座らせるようにし

てください。または、ブースタ・シートを使用してお子さまが正しくシートベルトを着用できるようにしてください。

警告!

ショルダ・ベルトをお子さまの脇の下に通したり、背中・後ろに回したりすることは絶対に避けてください。衝突の際、ショルダ・ベルトはお子さまを適切に守ることができず、重傷を負うまたは死亡する場合があります。お子様は必ず 3 点式シートベルトの肩と腰の部分を正しく装着しなければなりません。

ISOFIX チャイルド・シート

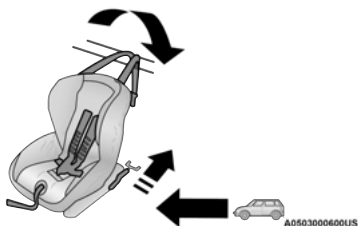


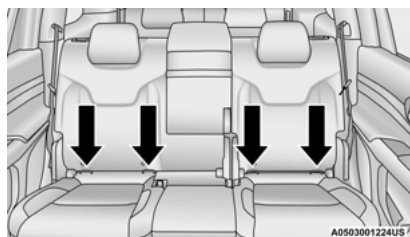
図 E

車両には ISOFIX というチャイルド・シート・アンカ機構が装備されています。このシステムにより、ISOFIX を備えたチャイルド・シートを車両のシートベルトを使用せずに取り付けすることができます。ISOFIX システムには、シート・クッションの奥、シート・バックと接する位置にある 2 つのロア・アンカとシート位置の後ろにある 1 つのトップ・テザー・アンカが備わっています。

体重グループ I のユニバーサル ISOFIX チャイルド・シートの例が図 E に示されています。他の体重グループ用の ISOFIX チャイルド・シートもご利用頂けます。

ISOFIX アンカの配置

ロア・アンカは丸いバーで、シート・バックとシート・クッション後部の境目にあり、シート・クッションのアンカ記号の上にあります。チャイルド・シートを取り付けるためにリヤ・シートを見ると、すぐに目に入ります。シート・バックとシート・クッション間のすき間に指を差し込むと、すぐに見つかります。



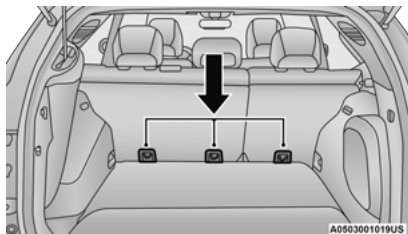
2 列目ロア・アンカ位置

2 列目テザー・アンカの配置



各リヤ・シートの後ろにはテザー・ストラップ・アンカがあり、背もたれに位置しています。

ISOFIX チャイルド・シートには、両側に堅いバーが付いています。それぞれ、ロア・アンカに取り付けるコネクタが付いており、アンカへの取り付け具合を締めることができます。前向きチャイルド・シートおよび一部の後ろ向きのチャイルド・シートには、テザー・ストラップが備えられている場合もあります。テザー・ストラップには、端部にトップ・テザー・アンカに取り付けるフックが付いており、アンカへの取り付け後にストラップを締めることができます。



2 列目テザー・アンカ位置

センタ・シートの ISOFIX

警告!

- センタ位置には、ISOFIX システムを使用してチャイルド・シートを取り付けしないでください。どのタイプの ISOFIX チャイルド・シートについても、この位置への取り付けは認められていません。
- センタ・テザー・アンカのみを使用して ISOFIX チャイルド・シート・システムを取り付けしないでください。センタ・シート位置にチャイルド・シートを取り付けるには、シートベルトを使用してください。
- 複数のチャイルド・シートの取り付けに同一のロア・アンカを使用しないでください。一般的な取扱説明書は ⇨ ページ 28 を参照ください。

ISOFIX チャイルド・シートの取り付け

チャイルド・シートを取り付ける際には、必ずチャイルド・シート・メーカーの指示に従ってください。すべてのチャイルド・シートが上述のように取り付けられるわけではありません。

ユニバーサル ISOFIX チャイルド・シートを使用する場合、ECE R44 基準 (リリース R44/03 またはそれ以上)「Universal ISOFIX (ユニバーサル ISOFIX)」と印されている、認定チャイルド・シートのみをご使用いただけます。

1. 車両のアンカにコネクタを簡単に付けられるように、チャイルド・シートのロア・コネクタとテザー・ストラップのアジャスタを緩めます。

2. チャイルド・シートをそのシート位置のロア・アンカの間に置きます。2 列目シートがリクライニングできる場合は、収まりを良くするためにシートをリクライニングさせたり、ヘッド・レスト(調節可能な場合)を上げたりしてもかまいません。リヤ・シートを車内で前後に動かせる場合、最後方に動かしてチャイルド・シートのための空間を作ることができます。また、フロント・シートを前方に動かして、チャイルド・シートのための空間を広げることでもできます。
3. チャイルド・シートのコネクタを、選択したシート位置のロア・アンカに取り付けます。
4. チャイルド・シートにテザー・ストラップが付いている場合は、それをトップ・テザー・アンカに接続します。テザー・アンカーの取り付け方法については、➡ ページ 29 を参照してください。
5. チャイルド・シートをシートの後方および下方へ押しながら、ストラップをすべて締め付けます。チャイルド・シート・メーカーの指示に従い、ストラップのたるみを取り除きます。
6. ベルトを取りまわしているところでチャイルド・シートを前後に引っ張って、チャイルド・シートがしっかりと取り付けられているかテストします。いずれの方向にも、25mm を超えて動いてはいけません。

警告!

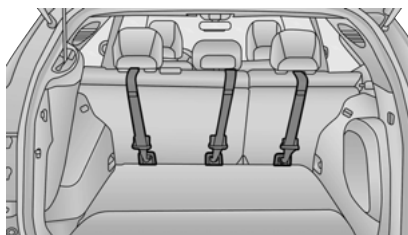
- チャイルド・シートは ISOFIX アンカへ正しく取り付けないと、機能しません。お子さまが重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。チャイルド・シートの取り付けは、必ずチャイルド・シート・メーカーの指示に従ってください。
- チャイルド・シート・アンカは、正しく取り付けられたチャイルド・シートの荷重のみを支えるよう設計されています。大人用シートベルトやハーネスに使用したり、車両に他の部品や装置を取り付ける目的では絶対に使用しないでください。
- チャイルド・シートは、車両が停止しているときに取り付けてください。ISOFIX チャイルド・シートがブラケットに正しく固定されると、カチッという音がします。

トップ・テザー・アンカによるチャイルド・シートの取り付け

1. チャイルド・シートを取り付けようとしているシート位置の背面を見て、テザー・アンカを見つけます。シートが移動可能な場合、シートを前に移動させて、テザー・アンカに手が届きやすいようにシートを前に移動させる必要がある場合があります。そのシート位置にトップ・テザー・ア

ンカがない場合、車の別の位置が利用可能ならば、チャイルド・シートをその位置に移動します。

2. テザー・ストラップを、アンカとチャイルド・シートの間の最短距離を通して取り回します。後席に調整機能付きヘッド・レストが装備された車両の場合、ヘッド・レストを持ち上げ、可能な場合は、テザー・ストラップをヘッド・レストの下、および 2 本の支柱の間に通します。それができない場合、ヘッド・レストを下げ、テザー・ストラップをヘッド・レストのドア側に通します。
3. 図に示すように、チャイルド・シートのテザー・ストラップ・フックをトップ・テザー・アンカに取り付けます。
4. チャイルド・シート・メーカーの指示に従い、テザー・ストラップのたるみを取り除きます。



2 列目テザー・アンカ

警告!

- テザー・ストラップの取り付け方法を誤ると、頭部の動きが大きくなりお子さまのけがの原因となる場合もあります。チャイルド・シートの上部テザー・ストラップを固定するには、お子さまの座席の真後ろにあるアンカのみに取り付けるようにしてください。
- 車両に分割リヤ・シートが装備されている場合は、ストラップのたるみを取り除くときに、テザー・ストラップが背もたれの間に入り込まないように注意してください。

警告!

シートベルトを使用してチャイルド・シートを取り付ける場合の手順は、チャイルド・シートの取扱説明書を確認してください。これらの手順を読み、遵守して正しくチャイルド・シートを取り付けてください。

シート位置ごとのチャイルド・シート使用法

この表には、特にチャイルド・シート・メーカを対象とした技術情報が記載されているため、各国言語に翻訳する必要はありません。

H6 7 人乗り、60/40 2 列目ベンチ・シート装備

	取り付け位置						
シート位置番号	1.	2	3.	4	5.	6	7.
前向き汎用ベルト取り付けに適したシート位置 (適／不適)	非作動	非作動	作動	非作動	作動	非作動	非作動
後ろ向き汎用ベルト取り付けに適したシート位置 (適／不適)	非作動	非作動	作動	非作動	作動	非作動	非作動
i-Size シート位置 (適／不適)	非作動	非作動	作動	非作動	作動	非作動	非作動
横方向固定具取り付けに適したシート位置 (L1/L2)	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動
後ろ向き固定具取り付けに適したシート位置 (最大) (R1/R2X/R2/R3)	非作動	非作動	R2	非作動	R2	非作動	非作動
前向き固定具取り付けに適したシート位置 (最大) (F1/F2X/F2/F3)	非作動	非作動	F2X	非作動	F2X	非作動	非作動
補助チャイルド・シートに適したシート (B2/B3)	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動

*適したシート位置を使用する際は、シートを最後方位置に調整してください。

**大きいチャイルド・シートを使用する場合は、前方のシートの位置を変更してください。

- シート位置:

 - 1.フロント左
 - 2.フロント右
 - 3.2 列目左
- 4.2 列目中央
 - 5.2 列目右
 - 6.3 列目左
 - 7.3 列目右

チャイルド・シートを取り付ける際には、必ずチャイルド・シート・メーカの指示に従ってください。すべてのチャイルド・シートが上述のように取り付けられるわけではありません。ユニバーサル ISOFIX チャイルド・シートを使用する場合、ECE R44 基準 (リリース R44/03 またはそれ以上)「Universal ISOFIX (ユニバーサル ISOFIX)」と印されている、認定チャイルド・シートのみをご使用いただけます。

ヘッド・レストがチャイルド・シート取り付けの邪魔になる場合は、ヘッド・レストを調節します (調節可能な場合)。

警告!

I	RISCHIO DI FERITE GRAVI O MORTALI. I seggiolini bambini che si montano nel verso opposto a quello di marcia non vanno installati sui sedili anteriori in presenza di air bag passeggero attivo.
GB	DEATH OR SERIOUS INJURY CAN OCCUR. NEVER use a rearward facing child restraint on a seat protected by an ACTIVE AIRBAG in front of it. DEATH or SERIOUS INJURY to the CHILD can occur
F	RISQUE DE MORT OU DE BLESSURES GRAVES. NE PAS positionner le siège pour enfant tourné vers l'arrière, en cas d'air bag passager actif.
D	Nichtbeachtung kann TOD oder SCHWERE VERLETZUNGEN zur Folge haben. Rückwärts gerichtete Kindersitzhaltesysteme (Babysitze) dürfen nicht in Verbindung mit aktiviertem Beifahrersitz auf dem Beifahrersitz verwendet werden.
NL	DIT KAN DODELIJK ZIJN OF ERNSTIGE ONGELUKKEN VEROOZAKEN. Plaats het kindersitje niet ruggelings op de voorstoel wanneer er een airbag aanwezig is.
E	PUEDEN OCACIONAR MUERTE O HERIDAS GRAVES. NO ubicar el asiento para niños en sentido inverso al de marcha en el asiento delantero si hubiese airbag activo lado pasajero.
PL	MOŻE GROZIĆ ŚMIERCIĄ LUB CIĘŻKIMI OBRAŻENIAMI. NIE WOLNO umieszczać fotelika dziecięcego tyłem do kierunku jazdy na przednim siedzeniu w przypadku zainstalowanej aktywnej poduszki powietrznej pasażera.
TR	ÖLÜM VEHYA AĞIR ŞEKLİDE YARALANMAYA SEBEP OLABİLİR. Yolu arkağı ağıt halden ilen çocuk koltuğunu araz gidy yönüne ters bğınde yerleştirmeyin.
DK	FARE FOR DØDELIGE KØVSTELSER OG LIVSTRUENDE SKADER. Placer aldrig en bagudvendt barnstol på passagerensædet, hvis passager-airbag'en er indstillet til at være aktiv (on).
EST	TAGAJÄRJEKS VÕIVAD OLLA TÕSSED KEHAVIGASTUSED VÕI SURM. Turvapaiga olemasolu korral ärge asetage lapsen turvasöötu sõiduasutusse vastassuunas.
FIN	KUOLEMANVAARA TAI VAKAVIEN VAMMOJEN UHKA. Älä aseta lasten turvatuolinia niin, että lapsi on selkä menossa-asennossa, kun matkustajan airbag on käytössä.
P	RISCO DE MORTE OU FERIMENTOS GRAVES. Não posicione o banco para crianças numa posição contrária ao sentido de marcha quando o airbag de passageiro estiver activo.
LT	GAU ĮSTIKTI MIRTIS ARBA GAUTE RIMTAI SUŠIZISTI. Nedėkite vaiko sėdynės atgaline nuga į priekinį automobilio sėdikį ten, kur yra veikiant keleivio oro pagalvė.
S	KAN VAKA LIVSHOTANDE ELLER LIDA TILL ALLVARIGA SKADOR. Placera aldrig en bakåtvänd barnstol i framsetet på passagerensida broddkudden är aktiv.
H	HALÁLOS VAGY SÚJÓTS BALESET KÖVETKEZHET BE. Ne helyezzük a gyermekülést a menetirányul szembe, ha az úts oldalán létezik működtető.
LV	VAR ĻĀSTĀŠ NĀVI VAI NOPĒRTNĀS TRAUMĀS. Nevisiet masiā sēdekī pretī brūkļiem virzienam, ja pasažiera pusē ir uzstādīta aktīva gaisa spilvena.
CZ	HROZÍ NEBEZPEČÍ VÁŽNĚHO UBLIŽENÍ NA ZDRAVÍ NEBO DOKONCE SMRTI. Neumísťujte detskú sedačku do opačnej polohy voči smeru jazdy v prípade aktívneho airbagu spolujazdca.
SLO	LAHKO PRIDE DO SMRTI ALI HUIJNI POŠKODBE. Oprotiokoli avtomobilnega sedla ne nameštajte v obratni smeri vožnje, če ima vozilo vgrajeno zračno blazino za posade.
RO	SE POATE PRODUCÉ DECESUL SAU LEZĂRINI GRAVE. Nu aşezati scaunul de masini pentru bebeluşi in poziţie contrară direcţiei de mers atunci când airbag-ul pasagerului este activat.
GR	ΜΠΟΡΕΙ ΝΑ ΠΡΟΚΑΛΗΣΟΥΝ ΘΑΝΑΤΟΙ Η ΣΟΒΑΡΑ ΤΡΑΥΜΑΤΑ. Μην τοποθετείτε το νηπιακό αυτοκινητόν ήλι μαδιλά σε αντίθετη προς την φορά της κίνησης θέση σε περίπτωση που υπάρχει ενεργός αέρας στην θέση του επιβάτη.
BG	ИМА ОПАСНОСТ ОТ СМЪРТ И СЕРИОЗНИ НАРАНЯВАНИЯ. Не поставяйте столчето за прекаране на бебета в положение обратно на посоката на движение, при положение активно на въздушната възглавница за пътниците.
SK	MOŽE NASTAT SMŤ ALEBO VÁŽNE ZRAŤENIA. Nedávajte autosedačku pre deti do polohy proti chodu vozidla, keď je aktívny airbag spolujazdca.
RUS	ТРАВМЫ И ЛЕТАЛЬНЫЙ ИСХОД. Детское кресло, устанавливаемое против направления движения, нельзя монтировать на месте переднего пассажира, если последнее оборудовано активной подушкой безопасности.
HR	OPASNOST OD TEŠKE ILI SMRTIPOSODNE OZLEDJE. Sjedala za djecu koja se montiraju u smjeru suprotnom od vožnje ne smiju se instalirati na prednja sjedala ako postoji aktivni zračni jastuk suvozača.
AS	لا تستخدم مقعد الطفل على مقعد مزود "بوسادة هوائية"، حيث إن المقعد قد يتأثر من كفاءة وقاية وإحصائيات وأمان

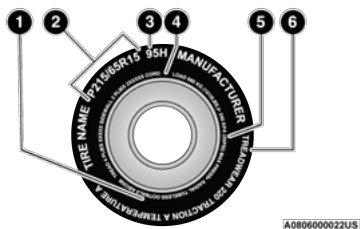
整備およびお手入れ

タイヤ

タイヤの安全情報

タイヤの安全情報では、以下の情報の内容を説明します。タイヤのマーキング、タイヤ識別番号、タイヤの用語と定義、タイヤ空気圧、およびタイヤ積載。

タイヤ上のマーク



タイヤ上のマーク

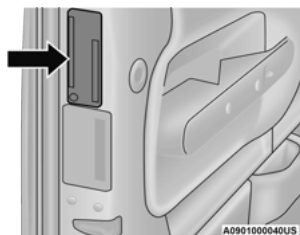
- 1 — 米国運輸省規定安全基準規格 (TIN)
- 2 — サイズ指定
- 3 — 整備の説明
- 4 — 最大荷重
- 5 — 最大空気圧
- 6 — トレッド・ウェア、トラクション、および温度等級

タイヤ積載とタイヤ空気圧

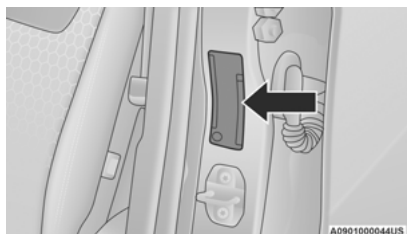
メモ:

適正な冷間時のタイヤ空気圧は、運転席側 B ピラーまたは運転席側ドアの後端に明示されています。

月一度はスベア・タイヤ (タイプ別装備) も含めて各タイヤの空気圧を点検し、ご使用の車両の推奨空気圧まで空気を入れてください。



タイヤ・プラカードの配置例 (ドア)



タイヤ・プラカードの配置例 (B ピラー)

タイヤと積載情報のプラカード

TIRE AND LOADING INFORMATION			
SEATING CAPACITY - TOTAL 5 FRONT 2 REAR 3			
THE COMBINED WEIGHT OF OCCUPANTS AND CARGO SHOULD NEVER EXCEED XXX KG OR XXX LBS.			
TIRE	FRONT	REAR	SPARE
ORIGINAL TIRE SIZE	P195/70R14	P195/70R14	T125/70D15
COLD TIRE INFLATION PRESSURE	200kPa, 29PSI	200kPa, 29PSI	420kPa, 60PSI
SEE OWNER'S MANUAL FOR ADDITIONAL INFORMATION		4N109268	

タイヤと積載情報のプラカード

このプラカードは次の重要な情報を説明しています。

1. 乗車可能な人数。
2. 運搬可能な総重量。
3. 車両のタイヤ・サイズ。
4. フロント・タイヤ、リヤ・タイヤおよびスペア・タイヤの冷間時のタイヤ空気圧。

積載方法

メモ:

最大積載量の状態では、フロント・アクスルおよびリヤ・アクスルの車軸定格総重量 (GAWR) を超えないようにしてください。

適切な積載制限を定義する手順—

(1) 車両のプラカードに記載されている「乗員と積荷の総重量は XXXkg (XXXlbs) を超えないこと」の情報を見つけます。

(2) 車両に乗車する運転手と同乗者の合計重量を確認します。

(3) 運転手と乗客の合計体重を XXX kg または XXX lbs から差し引きます。

(4) 得られた数値は、利用可能な積荷／荷物の重量に等しくなります。たとえば、「XXX」の値が 1400lbs に相当する場合、車両に 150 lbs の乗員が 5 人乗車する場合、利用可能な積荷／荷物の重量は 650lbs です。(1400-750 (5x150) = 650 lbs.)

(5) 車両に積載する積荷／荷物の合計重量を決定します。この重量は、ステップ 4 で計算された利用可能な積荷／荷物の安全な積載量を超えてはなりません。

(6) 車両がトレーラーをけん引する場合、トレーラーからの荷重が車両に伝達されます。これにより車両の利用可能な積荷／荷物の積載量がどのように減少するかを判断するには、本取扱説明書を参照してください。

タイヤ - 一般情報

Tire Pressure (タイヤ空気圧)

車を安全かつ快適に走行させるためには、タイヤの空気圧を適切に保つことが非常に重要です。タイヤ空気圧が不適切だと、車の走行にかかわる次の 4 項目に影響を及ぼします。

- 安全性
- 燃費
- トレッドの摩耗
- 乗り心地と車の安定性

安全性

警告!

- 空気圧が不適切なタイヤは危険で、衝突事故を起こす恐れがあります。
- 空気圧が低すぎると、タイヤのたわみを増加させ、過熱や破損の原因になります。
- 空気圧が高すぎると、タイヤの衝撃吸収能力が損なわれます。道路上の障害物および穴は、タイヤの故障を招く損傷を与える場合があります。
- タイヤの空気圧が高すぎたり低すぎたりすると操作性に影響し、また、突然パンクして車の制御ができなくなる恐れがあります。
- 不均衡なタイヤ空気圧は、ステアリング異常の原因になります。車が制御できなくなる恐れがあります。
- タイヤ空気圧が左右で異なると、車体が左または右に振られる恐れがあります。
- 必ず推奨されている冷間時のタイヤ空気圧で運転してください。

高すぎる空気圧および空気圧の不足は、車両の安定性に影響を及ぼし、運転時の反応が鈍くなったように感じたり、反応が大きすぎるように感じたりする場合があります。

メモ:

- タイヤ空気圧が左右で異なると、不適正な予測できないステアリング反応が起こることがあります。
- タイヤ空気圧が左右で異なると、車体が左または右に振られる恐れがあります。

燃費

空気圧が低いタイヤは、タイヤの回転抵抗を増加させ、燃費が低下します。

トレッドの摩耗

不適切な冷間時のタイヤ空気圧は、正常ではない摩耗やトレッド寿命の短縮の原因となり、早目のタイヤ交換が必要になります。

乗り心地と車の安定性

適切なタイヤの空気圧は、快適な乗り心地を実現します。空気圧が高すぎると、きしり、および乗り心地の悪化の原因になります。

タイヤの空気圧

冷間時の適正なタイヤ空気圧は、運転席側 B ピラ一または運転席側ドアの後端に明示されています。

最低 1 か月に 1 度:

- 高品質の小型空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検して調整します。目視だけで適切な空気圧が入っているかどうかを判断しないでください。タイヤは、空気圧が低くても、適切な空気圧があるように見えます。
- タイヤの摩耗や目視できる損傷の徴候がないかタイヤを検査します。

注意!

タイヤ空気圧を点検して調節したら、必ずバルブ・システム・キャップを取り付け直してください。このキャップは、水分や汚れのバルブ・システムへの混入を防ぎます。水分や汚れが入ると、バルブ・システムは損傷することがあります。

ラベルに明記された空気圧は、「冷間時のタイヤ空気圧」です。冷間時のタイヤ空気圧とは、車が 3 時間以上停車している状態のタイヤ空気圧、または 3 時間以上が経過した後で走行した距離が 1.6km (1 マイル) 未満のタイヤの空気圧を意味します。冷間時のタイヤ空気圧は、タイヤの側面に記載された最大空気圧を超えないようにしてください。

タイヤの空気圧は温度変化の影響を受けるため、外気温の変動が激しい場合はより頻繁に点検を行ってください。

タイヤの空気圧は、気温が 7°C (12°F) 変化すると共に約 7kPa (1PSI) 変化します。特に冬にガレージ内でタイヤ空気圧をチェックする際は、このことを覚えておいてください。

例: ガレージ内の温度が 20°C (68°F) で外気温が 0°C (32°F) の場合、冷間時のタイヤ空気圧を 21kPa (3psi) 高くします。つまり、外気温との差が 7°C (12°F) ごとに 7kPa (1psi) で調整します。

タイヤ空気圧は、走行中に 13~40kPa (2~6psi) 上昇する場合があります。この空気圧の上昇は正常なものなので、下げないでください。空気を抜くとタイヤの空気圧が低くなりすぎます。

高速走行時のタイヤ空気圧

メーカーは、制限速度内の安全速度で運転することを推奨しています。制限速度や道路条件から高速運転が可能で、実際に高速運転を行う場合、タイヤの空気圧を適切に保つことが特に重要になります。高速走行を行うには、タイヤ空気圧を上げて、車両積載量を減らす必要がある場合もあります。推奨される安全走行速度、積載量、および冷間時のタイヤ空気圧については、認定タイヤ販売店または純正部品販売店に問い合わせてください。

警告!

最大積載時の高速走行は危険です。タイヤに負荷がかかりすぎると、破損することがあります。重大な衝突事故につながる恐れもあります。車が最大積載量まで積荷されている場合は、120km/h (75mph) を超える速度で長時間走行しないでください。

ラジアル・タイヤ

警告!

ラジアル・タイヤを他の種類のタイヤと混合して使用すると、車の操作性に悪影響を及ぼします。安定性が損なわれ、衝突事故につながる場合があります。ラジアル・タイヤは、常に 4 本セットで使用してください。絶対にラジアル・タイヤをその他のタイヤと組み合わせで使用しないでください。

タイヤの修理

タイヤが損傷した場合でも、次の基準に適合する場合は修理できることがあります:

- パンクした状態で走行していない。
- 損傷がタイヤのトレッド部分に限定されている (サイドウォールの損傷は修理できません)。
- パンクが 6mm 以下である。

タイヤの修理および詳細については、認定タイヤ販売店にお問い合わせください。

損傷したラン・フラット・タイヤ、または空気圧が減少したラン・フラット・タイヤは、サイズおよび整備詳細 (積荷指数および速度記号) が同じ新品のラン・フラット・タイヤとすぐに交換する必要があります。再使用できるようには設計されていないため、タイヤ空気圧センサは交換してください。

ラン・フラット・タイヤ - タイプ別装備

ラン・フラット・タイヤを使用すると、空気圧が急速に減少した後でも、80km/h (50mph) の速度で 80km (50 マイル) の距離を走行することができます。この空気圧の急速な減少は、ラン・フラット・モードと呼ばれる。ラン・フラット・モードは、タイヤ空気圧が 96kPa (14psi) 以下の場合に発生します。ラン・フラット・タイヤがラン・フラット・モードに達すると、その運転性能が制限されるため、直ちに交換する必要があります。ラン・フラット・タイヤは修理できません。ラン・フラット・モード (96kPa (14psi)) で走行した後ラン・フラット・タイヤを交換する場合、TPMS センサは再利用できないので、交換してください。

メモ:

タイヤがパンクした状態で車両を走行した場合は、その後 TPMS センサを交換する必要があります。

タイヤがラン・フラット・モードのときに、フル容量で積載された車両を運転したり、トレーラをけん引することはお勧めできません。

タイヤの空転

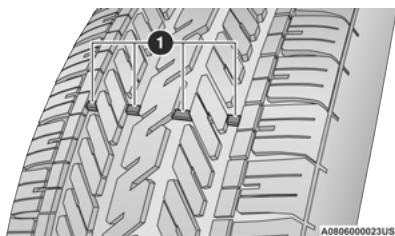
ぬかるみ、砂地、雪道、凍結路で立ち往生したとき、タイヤを 30 mph (48 km/h) を超える速度で、または 30 秒以上連続して空転させないでください。

警告!

タイヤの高速空転は危険です。過度のホイール回転速度によって生じる力でタイヤが破損または故障する恐れがあります。タイヤが破裂し、人にけがを負わせる場合もあります。ぬかるみなどで動けなくなった場合は、車のタイヤを 48km/h (30mph) を超える速度で 30 秒以上連続して空転させないでください。また、回転速度に関係なく、空転しているタイヤ付近に人が近づかないようにしてください。

トレッド・ウエア・インジケータ

トレッド・ウエア・インジケータは、純正タイヤに備えられており、タイヤの交換時期を判断するのに役立ちます。



タイヤ・トレッド

1 - トレッド・ウエア・インジケータ

インジケータは、トレッド溝の底の部分に成形加工されており、トレッドの深さが 1.6mm (1/16 インチ) になると、筋状に盛り上がった箇所が現れます。トレッドが摩耗してトレッド・ウエア・インジケータが見えたら、タイヤを交換する必要があります。➡ ページ 34。

タイヤの寿命

タイヤの寿命は以下のさまざまな要因に左右されます。

- ドライビング・スタイル。
- タイヤ空気圧 - 冷間時のタイヤ空気圧が適切でないと、タイヤ・トレッドが不均一に摩耗する原因になります。こういった、正常ではない摩耗によってトレッドの寿命が縮まり、早目のタイヤ交換が必要になります。
- 走行距離。

- 一般に、パフォーマンスタイヤ、V 以上の速度記号が表記されているタイヤ、夏用タイヤのトレッド寿命は短いです。車のメンテナンス・ノート (Auto Biography) に合わせて、これらのタイヤのローテーションを行うことを強くお勧めします。

警告!

タイヤとスベア・タイヤは、トレッド残溝の有無に関わらず 6 年毎に交換してください。この警告に従わないと、突然タイヤが損傷することがあります。車を制御できなくなり、重傷または死亡につながる衝突事故が発生する恐れがあります。

メモ:

既存のタイヤの摩耗や損傷のために新品のタイヤを取り付ける場合、ホイール・バルブ・ステムも交換する必要があります。

取り外したタイヤは可能な限り光が当たらない涼しく乾いた場所に保管してください。タイヤにオイルやグリース、ガソリンを付着させないでください。

交換用タイヤ

新車に装着されているタイヤは、さまざまな特性のバランスが取れています。定期的に、摩耗の有無や冷間時の適正タイヤ空気圧を点検してください。当社では、タイヤの交換が必要な時は、サイズ、品質、性能が純正品と同等のタイヤを使用することを強く推奨しています ➡ ページ 34。タイヤのサイズ指定については、タイヤと積載情報のプラカードまたは車両識別ラベルを参照してください。タイヤの積荷指標と速度記号は、純正タイヤのサイドウォール(側面)に表示されています。

タイヤの積荷指標と速度記号に関する詳細情報は、➡ ページ 31 を参照ください。

フロント・タイヤ 2 本またはリア・タイヤ 2 本はペアで交換することをお勧めします。1 本のタイヤのみを交換した場合、車の操作に重大な影響が出る恐れがあります。ホイールを交換する場合は、ホイールの仕様が元のホイールの仕様と一致していることを確認してください。

タイヤの仕様や特性に関しては、認定タイヤ販売店または純正品取扱店にお尋ねください。同等の交換タイヤを使用しないと、車の安全性、操作性および乗り心地に悪影響を及ぼす恐れがあります。

警告!

- 車両に指定されている以外のタイヤ、ホイール・サイズ、定格荷重、または定格速度のものは使用しないでください。車両仕様に適合しないタイヤおよびホイールを組み合わせると、サスペンション寸法および性能特性が変わり、操縦性、操作性および制動性が変わってしまいます。これにより予期せぬステアリング・ホイール操作が生じたり、ステアリングおよびサスペンション構成部品に応力がかかったりすることがあります。車を制御できなくなり、重傷または死亡につながる衝突事故が発生する恐れがあ

(続き)

警告!

ります。この車には、認可された定格荷重のタイヤおよびホイール・サイズを必ず使用してください。

- 純正タイヤより少ない積荷指標または積載量のタイヤは決して使用しないでください。荷重指標が小さいタイヤを使用すると、タイヤに過剰な負担がかかり損傷する恐れがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。
- 車の速度に十分耐えるタイヤを装着していないと突然タイヤが損傷し、車を制御できなくなることがあります。

注意!

標準装備のタイヤを異なるサイズのタイヤに交換すると、スピードメータやオドメータの値が不正確になる恐れがあります。

さく引

記号

安全情報、タイヤ	31
運転上の注意	7
運転席シート・バックの傾き調整	3
横転についての警告	2
外部照明	4
空気圧	
タイヤ	33
警告、シートベルト	11
警告、横転	2
警告、照明消し忘れ	4
故障診断システム、オンボード	7
交換用タイヤ	34
高度事故時反応機能	22
指示器、方向	4
車外灯	4
車線変更と方向指示器	4
車線変更補助	4
車両積載量	32
タイヤ	31
助手席側エアバッグ無効 OFF	17
助手席側エアバッグ無効 ON	17
消灯遅延	
ヘッドライト	4
乗員シートベルト	10
折りたたみ式シート	3
低タイヤ空気圧モニタ・システム	8
点滅表示灯	
方向指示灯	4
妊娠中の方とシートベルト	15
補助拘束装置 - エアバッグ	16
方向指示灯	4

B

Bピラーの位置	31
---------	----

L

Lights (警告灯)	
イルミネーション・スイッチ、ヘッドライト	4, 5
インストルメント・パネル	4
エアバッグ	5, 15
オート・ヘッドライト	5
シートベルト警告灯	6
タイヤ空気圧モニタ (TPMS)	6, 8
デイトタイム・ランニング	4
ハイビーム	5
ハイビーム／ロー・ビーム切替スイッチ	4, 5
パッシング	4
ブレーキ警告灯	5
ヘッドライト	4
ヘッドライト・スイッチ	4
ライト消し忘れ警告アラーム	4
方向指示灯	4

い

イルミネーション・スイッチ	
ヘッドライト	4, 5

え

エアバッグ	16
エアバッグ・システムのメンテナンス	24
エアバッグが作動したとき	22
エアバッグの作動	17
エアバッグ警告灯	15
エアバッグ予備警告灯	16
お手入れ	24
サイド・エアバッグ	20
ニー・インパクト・ボルスタ	20
高度事故時反応	22
エアバッグ警告灯	15

お

オート・ヘッドライト	5
オートマチック・ハイ・ビーム	5
オンボード故障診断システム	7

し

シート	3
チルト	3
ヘッド・レスト	3
リヤ折りたたみ式	3
調整	3
シートベルト	11
アジャスタブル・ショルダ・ベルト	13
アジャスタブル上部ショルダ・アンカ	13
アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカ	13
シートベルト・プリテンショナ	15
シートベルト警告灯	11
ねじれ修正手順	13
プリテンショナ	15
フロント・シート	11, 12
ラップ／ショルダ・ベルト	11
ラップ／ショルダ・ベルトのねじれ修正	13
ラップ／ショルダ・ベルト操作	12
リヤ・シート	11
警告灯	11
衝突エネルギー低減機能	15
操作説明書	12
妊婦	15
シートベルト警告灯	6
ショルダ・ベルト	11

た

タイヤ	32
タイヤの寿命	34
トレッド・ウエア・インジケータ	34
ラジアル	33
安全性	31, 32
一般情報	32

空気圧	32, 33
空気圧モニタ・システム (TPMS)	6, 8
空転	34
交換用	34
高速	33
負荷性能	31, 32
劣化 (タイヤの寿命)	34
タイヤと積載情報のブラカード	31
タイヤの安全情報	31
タイヤの寿命	34
タイヤ上のマーク	31

て

デイトイム・ランニング・ライト	4
-----------------------	---

と

トレッド・ウエア・インジケータ	34
-----------------------	----

ね

ねじれ修正手順、シートベルト	13
----------------------	----

は

ハイビーム／ロー・ビーム切替 (イルミネー ション・コントロール) スイッチ	5
パッシング	4
パンクしたタイヤの交換	31
パンクしたタイヤの収納	31

ふ

フォグ・ライト	4
プリテンショナ シートベルト	15
ブレーキ・システム 警告灯	5

へ

ヘッド・レスト	3
ヘッドライト	4
オートマチック スイッチ	5
ハイビーム／ロー・ビーム切替スイッチ	4, 5
パッシング	4
ライト消し忘れ警告アラーム	4
消灯遅延	4
ヘッドレスト	3

ま

マルチファンクション・コントロール・レバー	4
-----------------------------	---

も

モニタ、タイヤ空気圧システム	8
----------------------	---

ら

ラジアル・タイヤ	33
ラップ／ショルダ・ベルト	11
ラベル、タイヤと積載情報	31







Jeep®